

会 務 報 告

(平成 19 年 8 月～平成 20 年 7 月)

◇**診断病理サマーフェスト**：サマーフェスト委員会のもとで、平成 19 年 8 月 11 日(土) 12 日(日)、東京大学医学部鉄門記念講堂にて「第 1 回診断病理サマーフェスト」が開催された。205 名が参加し、うち 40% が病理、40% が産婦人科、20% が放射線科からの参加であった。

◇**平成 20/21 年度役員(理事・監事)の選出について**：選挙管理委員会は、社団法人日本病理学会次期(平成 20/21 年度)役員選出のために選挙を行なった。その結果につき、森 茂郎委員長名で、以下のとおりお知らせした。

平成 20/21 年度役員(理事・監事)の選出について(お知らせ)

平成 19 年 11 月 5 日

社団法人日本病理学会

選挙管理委員長 森 茂郎

社団法人日本病理学会選挙管理委員会は、平成 20/21 年度役員(理事・監事)選出のため、役員立候補の公募・選挙を実施し、所定の役員を選出決定(記の 1)しましたので報告いたします。なお、このたびの役員・理事長選挙は、下記の日程で行なわれました。

○第 1 回委員会(6 月 6 日)：役員選挙の公示文書および選挙の概要の確認。

6 月 20 日付けにて、役員候補者の公募を通知。

○第 2 回委員会(8 月 1 日)：役員立候補者の確認。8 月 20 日付けにて、立候補者が定員を超えた選出区分において選挙公示。正会員数 3,623 名(8 月 20 日現在)による投票(9 月 10 日消印有効)。

○第 3 回委員会(9 月 14 日)：役員選挙開票・選出(記の 2)。ただし、役員立候補者が定員内の選出区分については、無投票当選者を確認・選出(記の 3)。理事長選挙への所信表明の公募(9 月 28 日締切)。理事長選挙の公示文書の確認。10 月 10 日付けにて、理事長選挙の公示。正会員数 3,646 名(10 月 10 日現在)による投票(10 月 31 日消印有効)。

○第 4 回委員会(11 月 5 日)：理事長選挙開票・選出(記の 4)。投票数 1,237 通、投票率は 33.9%。結果は、立候補制ではないため、次点まで掲載。

記

1. 平成 20/21 年度役員(理事・監事)選出

理 事 長 長 村 義 之
理 事 青 笹 克 之
理 事 深 山 正 久
理 事 井 内 康 輝
理 事 覚 道 健 一

理 事 黒 田 誠
理 事 真 鍋 俊 明
理 事 松 原 修
理 事 本 山 悌 一
理 事 向 井 清
理 事 根 本 則 道
理 事 岡 田 保 典
理 事 坂 本 穆 彦
理 事 佐 藤 昇 志
理 事 白 石 泰 三
理 事 居 石 克 夫
理 事 寺 田 信 行
理 事 上 田 真 喜 子
理 事 山 口 朗

監 事 石 原 得 博
監 事 太 田 秀 一

(氏名は、役名ごとに ABC 順で記載)

2. 役員選挙投票結果

(1) 選出区分 1 地方区選出理事(1 名)

順位	氏 名	得票数	
1-3 関 東	1. 根本 則道	377 票	当選
	2. 中島 孝	207 票	次点

内訳：会員数 1,347 名、投票数(率) 590 票(43.8%)、有効投票数 584 票

(2) 選出区分 2 全国区選出理事(11 名)

順位	氏 名	得票数	
1.	長村 義之	929 票	当選
2.	真鍋 俊明	768 票	当選
3.	深山 正久	752 票	当選
4.	黒田 誠	635 票	当選
5.	向井 清	601 票	当選
6.	覚道 健一	501 票	当選
7.	坂本 穆彦	499 票	当選
8.	青笹 克之	463 票	当選
9.	岡田 保典	455 票	当選
10.	松原 修	423 票	当選
11.	上田真喜子	415 票	当選
12.	樋野 興夫	314 票	次点
13.	仲野 徹	210 票	

内訳：会員数 3,623 名，投書数（率）1,575 通（43.5%），有効投書数 1,557 通，総投票数 6,973 票，有効投票数 6,965 票

(3) 選出区分 3 口腔病理部長兼務全国区選出理事（1 名）

順位	氏名	得票数	
1.	山口 朗	769 票	当選
2.	朔 敬	549 票	次点

内訳：会員数 3,623 名，投票数（率）1,366 票（37.7%），有効投票数 1,318 票

3. 無投票当選者

(1) 選出区分 1 地方区選出理事（6 名）

1-1	北海道	佐藤 昇志	当選
1-2	東北	本山 悌一	当選
1-4	中部	白石 泰三	当選
1-5	近畿	寺田 信行	当選
1-6	中国四国	井内 康輝	当選
1-7	九州沖縄	居石 克夫	当選

(2) 選出区分 4 監事（2 名）

	石原 得博	当選
	太田 秀一	当選

4. 理事長選挙投票結果

順位	氏名	得票数	
1.	長村 義之	757 票	当選
2.	深山 正久	76 票	次点

内訳：会員数 3,646 名，投書数（率）1,237 通（33.9%），有効投票数 1,226 票

◇技術講習会—分子病理学の基礎技術 7—：落合淳志部長（国立がんセンター東病院）のもとで，平成 19 年 12 月 5 日（水），江戸川区民ホールにて実施され，64 名が受講した。講師は，モデレーターとして落合淳志部長があつたほか，講義は福岡順也（富山大学），長谷川 匡（札幌医科大学），佐伯俊昭（埼玉医科大学），吉村健一（国立がんセンター），畑中 豊（ダコ・ジャパン）の各氏が担当した。

◇第 53 回秋期特別総会（平成 19 年度）：東京医科大学を世話機関として向井清会長のもとで，平成 19 年 12 月 6 日（木）～7 日（金）の 2 日間，江戸川区総合区民ホール（タワーホール船堀）にて開催された。要望講演 1 題，学術研究賞演説（A 演説）8 題，B 演説 2 題，シンポジウム 1 件 4 題，病理診断シリーズ 2 題，特別企画 1 件 2 題，ランチョンセミナー 2 件の発表と討論が行なわれた。会期の前後には技術講習会，IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

要望講演（1 題）

秋山 太（癌研病理）：乳癌術前薬物療法の病理診断

学術研究賞演説（A 演説）（8 題）

(1) 千葉 英樹（札幌医科大学病理学第二講座）：細胞間接着と極性形成の制御機構

(2) 岩屋 啓一（東京医科大学病理診断学講座）：乳癌の形態異常と悪性度診断

(3) 北澤 理子（神戸大学大学院医学系病理学生物学講座病理学分野）：破骨細胞分化を制御する分子機構の解析

(4) 石丸 直澄（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔分子病態分野）：自己免疫疾患における NF- κ B シグナルを介した T 細胞の制御機構

(5) 片野 晴隆（国立感染症研究所感染病理部）：エイズ関連悪性腫瘍の感染病理に関する研究

(6) 相島 慎一（国家公務員共済組合連合会浜の町病院病理）：肝内胆管癌の発生と進展機序の解明～腫瘍制御を目指して

(7) 石井源一郎（国立がんセンター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部）：がん間質形成過程に関わる線維芽細胞の生物学的ダイナミクス

(8) 鳥越 俊彦（札幌医科大学医学部病理学第一講座）：乳癌に対する免疫応答と免疫逃避機序の病理学的解析

B 演説（2 題）

(1) 大井 章史（金沢大学大学院医学研究科分子細胞病理学）他：壁細胞肥大と内分泌細胞の瀰漫性過形成を伴った胃の多発性カルチノイドの 1 例

(2) 山口 岳彦（札幌医科大学病理診断学）：斜台部良性脊索細胞腫の考察

シンポジウム（1 件 4 題） 科学論文の書き方

(1) 坂元 亨宇（慶應義塾大学病理学）：論文を書く前の心構えと準備

(2) 向井 清（東京医科大学病理診断学）：論文執筆の実際

(3) J. Patrick Barron（東京医科大学国際医学情報センター）：How to write scientific papers in English and avoid the common mistakes made by Japanese authors

(4) 高橋 雅英（名古屋大学分子病理）：論文を審査する立場から

病理診断シリーズ（2 題）

シリーズ 33 廣瀬 隆則（埼玉医科大学病理学）：脳腫瘍の病理診断—鑑別診断を中心として

シリーズ 34 向井 清（東京医科大学病理診断学）：胸腺上皮腫瘍の分類

特別企画（1 件 2 題） ここまで来たバーチャルスライド

(1) 土橋 康成（ルイ・パストゥール医学研究センター）：バーチャルスライド（VS）の可能性と課題—診断への応用を中心として—

(2) 小賀 厚徳（山口大学分子病理）：バーチャルスライドを活用した山口大学における卒前医学（病理）教育の実際

○今後予定されている総会は，以下のとおりである。

- 1) 第97回(平成20年度)総会
世話機関: 金沢大学
会 長: 中沼安二教授
会 期: 平成20年5月15日(木)~17日(土)
会 場: 石川県立音楽堂他

- 2) 第54回(平成20年度)秋期特別総会
世話機関: 愛媛大学
会 長: 植田規史教授
会 期: 平成20年11月20日(木)~21日(金)
会 場: 松山市総合コミュニティセンター

- 3) 第98回(平成21年度)総会
世話機関: 京都大学
会 長: 真鍋俊明教授
会 期: 平成21年5月1日(金)~3日(日)
会 場: 京都国際会館

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について: 平成19年12月5日(第53回秋期特別総会の前日)に江戸川区総合区民ホール(タワーホール船堀)にて理事会を, 12月6日には同所にて総会を開催した。これらの理事会, 総会では, 理事長報告, 各種委員会委員長報告を行なった。

協議事項としては, 総会では, 平成20/21年度役員の選任, 平成20年度事業計画並びに収支予算, 第55回(平成21年度)秋期特別総会会長および第99回(平成22年度)総会会長について協議し, それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では, 第98回(平成21年度)総会宿題報告担当者, 平成20年度秋期学術集会シンポジウム演題, 病理診断シリーズの講演者, 第8回(平成20年度)海外病理学者・研究者の招聘, 第7回(平成19年度前期)海外病理学会参加支援者, 第9回海外派遣および英国病理学会との交流派遣者, 平成20年度名誉会員有資格者, 平成19年度上期新入会員, をそれぞれ協議して決定した。

◇理事会: 平成19年12月5日(水)の理事会には長村義之, 真鍋俊明, 岡田保典, 黒田 誠, 深山正久, 青笹克之, 林 良夫, 樋野興夫, 井内康輝, 中島 孝, 中沼安二, 根本則道, 小川勝洋, 坂本穆彦, 居石克夫, 恒吉正澄, 堤 寛(以上理事), 松原 修(監事), 向井 清(第53回秋期特別総会会長), 大藪いづみ, 菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席し, 長村理事長の司会により議事を進めた。議事録に署名する出席者代表に中沼安二, 恒吉正澄両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 病理科標榜については, 来年5月の金沢での学会時にWS(病理業務/診療科としての病理診断科)を開催することになっている。
- (2) 平成20年度診療報酬改定については, 11月16日 中医協基本問題小委員会(傍聴 長村 根本 稲山 佐々木)にて, 病理診断が臨床検査から外れることが中医協で認められた。

- (3) 医療関連死関係専門委員会のアンケートの公表(ホームページ)することとした。
- (4) 平成20年3月21日に, 日本学術会議公開講演会「医療関連死を考える解剖に基づくあらたな死因究明制度」東京大学医学部大講堂で開催される。経費も含め病理学会と法医学会で合同して企画開催を進行中である。
- (5) 2014年に向けてWHO ICD11を策定中であるが, これに病理学会からも委員を出せるよう厚生労働省担当部署に要望した。
- (6) プログラム推進委員会の要望もあり, 病理学会や関連研究会等が行なっているセミナー等の一覧(予定も含めて)を事務局が作成し病理学会ホームページに掲載することとした。
- (7) 日本がん治療認定医機構より, 連携・協力および関連学会連絡委員会への参加の有無について問い合わせがあったので, いずれも有りと回答した, また, 認定制度の適用申請については本学会からは申請しないと回答した。
- (8) 「日母分類改定のためのワーキンググループ」の病理側委員として坂本穆彦理事および森谷卓也学術評議員を推薦した。婦人科細胞診クラス分類は廃止の方向である。
- (9) 8月28日に日本がん治療認定医機構の第1回関連学会連絡委員会に黒田理事が出席した。同機構の細則にある「基本領域の学会」に日本麻酔学会と日本病理学会が追加されたと報告された。
- (10) 9月23日に藤田保健衛生大学にて開催されて教育ワークショップの報告書が提出された。今後は, これを踏まえて文部科学省への要望書の形とするよう教育委員会に依頼した。
- (11) 第99回総会および第55回秋期特別総会の会長選出については, それぞれ3名および1名の応募があった。応募書類をプログラム推進委員会にて審議し, 理事長に意見が報告された。
- (12) 故妹尾左知丸名誉会員より, 日本病理学会会誌のバックナンバーが寄贈された。
- (13) 10月に本郷税務署の定例税務調査を受けた。学術集会の資料を求められたので対応中である。
- (14) 7月15日に医学生対象のレジナビフェアがあり, プースを出展した。その報告が若手医師確保のための小委員会委員長大橋健一先生よりあった。
- (15) 新公益社団法人申請に向けて対応をする必要がある。
- (16) 来年度以降のサマーフェストについては, 第2回は京都, 第3回は東京で開催の予定である。
- (17) 100周年記念事業については, 実行委員・発起人の依頼をし, 諾否の返事もらったところである。
- (18) 今年の旭川での日本病理学会カンファレンスには, 現時点で69名の参加があった。
- (19) 10月19日に開催された学術委員会にて, 第98回総会(京都)時の宿題報告担当候補者3名が内定した。また,

来年の秋期特別総会時のシンポジウムのテーマおよび病理診断シリーズの担当候補者2名も内定した。

- (20) Pathology International のオンライン化については、刊行費の削減という意味で検討を始めた。これにより、科研費の申請は来年度は行わないことにした。「診断病理」のオンライン化についても病理専門医制度運営委員会→常置委員会の編集委員会で話題とすることとした。
- (21) 来年度病理学会カンファレンスは、国立成育医療センターの梅澤明弘先生が世話人である。
- (22) がん対策基本法が閣議決定されたことにより、都道府県においてがん対策推進基本計画が検討されることになった。その際の厚労省からのガイドラインに、病理診断および細胞診の重要性を明記してもらうよう要望することとした（臨床細胞学会との連携）。
- (23) 精度管理小委員会から出されている「免疫組織化学検査の制度管理システム構築に関する検討 実施計画書案」については、病理学会の倫理委員会を通すよう、羽場小委員会委員長と根本担当理事に依頼することとした。
- (24) 来年の細胞診講習会は、3月22・23日に日大を会場に根本則道教授が世話人として行なうこととなっている。
- (25) 総会時の特別報告については、投影用資料をそれぞれの担当委員が作成した。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会（深山正久委員長）

- ① 若手のリクルートに関する活動としては、若手医師確保に関する小委員会(大橋健一委員長)のもとで、ホームページの充実や医学生ためのレジナビフェアへの参加を行なっている。来春の金沢の総会では学生ポスター会場にブースも設ける予定である。また、後期研修プログラムの情報を集めた小冊子を作る計画もある。
- ② 臨床医学との対話促進の意味で、「診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話」を開催した。第1回は2007年8月11・12日東京大学にて、婦人科病理を中心に行なった。約200名の参加があり、病理40%、婦人科40%、放射線科20%ということで、臨床との対話という意味では成功であった。
第2回は京都にて「肺の臨床・画像・病理」をテーマに8月23日・24日開催される。
- ③ 病理学会創立百周年記念事業として実行委員会を立ち上げた。委員長：森 亘先生，委員長代理：町並陸生先生，副委員長：秦 順一先生と森 茂郎先生，事務局長：深山正久を決定した。また、理事経験者に発起人になっていただいた。刊行事業や記念式典を考えており、来春には具体的な作業に入りたい。
- ④ 公益法人制度の改定に伴い、新公益法人への移行を申

請する必要があり、これを機会に病理学会機構改革の必要性の有無、学術評議員会の在り方、専門医部会との関係、会費の見直し等を検討することとした。2年後くらいに申請したい。

- ⑤ 人材育成と地方基幹病院への配置を目的に「病理専門家養成プログラム」として、後期研修医枠（全国で20～50名 4年間）の財政的援助を厚生労働省に要望することの検討を始めた。
- ⑥ 市民公開講座への取り組みとして、プランニングの委員会立ち上げを検討している。
- (2) 医療業務委員会（根本則道委員長）
小委員会を中心に以下のとおり報告された。
- ① コンサルテーション小委員会報告（委員長：森永正二郎）
依頼症例数の推移について、本年度は500例程度になる予定で、昨年と比べ約10%減である。依頼用紙と報告用紙は紙メディアからメールによるものに変更することを検討中である。但し、標本は当面は従来通りガラススライドの送付による。
- ② 社会保険小委員会報告（委員長：稲山嘉明）
平成20年度の診療報酬改定では、要望項目の第1位として提出した病理診断の独立が中医協の診療報酬基本問題小委員会において了承された。従って、病理診断が検体検査（第3部）から第13部（仮）に分離独立する見通しである。要望内容に関しては複数の項目を順位づけして提出したが、そのうち免疫抗体加算（悪性リンパ腫、350点→3,500点）、病理細胞診迅速顕微鏡検査（0→1,100点）が二次審査に残っている。また、乳がん学会から提出されたER、PgRについての見直しと同様に二次審査に残っている。
- ③ 剖検・病理技術小委員会報告（委員長：谷山清己）
IHE-J協会(医療情報の国際標準化の協会)に病理学会として正式会員として参加することとなった。
ホルマリン規制改正に対する情報（詳細版）を病理学会HPにアップしてはどうかとの提案があった。簡易版はすでにHPにアップしてある。これに関しては、現在厚生労働省では、パブリックコメントの募集中である。
病理業務調査（正確な実態調査）の改善が必要である。
- ④ 精度管理小委員会報告（委員長：羽場礼次）
主治医からの病理診断依頼用紙のガイドラインの作成を終了、診断報告用紙のガイドラインは現在進行中。HER2の免疫染色についてのコントロール標本を作成中（来年3月終了予定）である。また、一人病理医でも出来る精度管理のガイドラインも検討中である。
- ⑤ がん取扱い規約小委員会報告（委員長：坂本彦彦）
診断入力ソフト作成の試み（金原出版から規約の項目の提供を受けることが可能）をしているところである。

現在改定作業中の規約として、卵巣腫瘍、脳腫瘍がある。

- ⑥ 病理診断体制専門委員会報告（委員長：水口國雄）
病理診断科が標榜科として認められるまでの経緯が報告された。標榜科をめぐる動きとして衛生検査所病理部門に関する改革案（石河先生）と堤先生からの病理学会への提言を踏まえて、本委員会が対応していくこととする。今後の本委員会のあり方については、実行力のあるパワーアップした委員会であるべきではないかとの提言があった。また、標榜科になることについて、さまざまな対応が必要なことから、会員の理解を得るためにも会員への広報活動が重要である。
- (3) 国際交流委員会（笹野公伸委員長 代理 根本則道理事委員）
平成20年度海外病理学者・研究者の招聘事業、平成19年度（前期）海外病理学会参加支援事業および英国病理学会との交流事業について、それぞれ候補者を選出した。協議事項で語る。
- (4) 財務委員会（真鍋俊明委員長）
「20年度事業計画と収支予算案」を承認したので後ほど協議する。
平成18年度の収支決算を分析したところ、一般会計の事業支出のうち学会誌（Pathology International, 日本病理学会誌）発行経費が43%、病理専門医部会の事業支出のうち70%弱が「診断病理」の発行経費であった。
学術集会の補助金を、春100万円から300万円へ、秋50万円から100万円に増額することとした。
- (5) 広報委員会（坂本穆彦委員長）
- ① 病理学会や関連研究会等が行なっているセミナー等の一覧を病理学会ホームページに掲載することとした。「病理カレンダー」の名称で作成の予定である。掲載は各支部からの集会開催の他、専門医制度の生涯学習単位に認められている程度の集会を考えている。
- ② 会務報告をホームページに掲載することとした。
- (6) 学術委員会（岡田保典委員長）
- ① 98回総会宿題報告担当者、第54回秋期特別総会のシンポジウムおよび診断シリーズの担当者・課題を選出した。協議事項で語る。宿題報告担当者については、本年度より自薦のみでなく、学術評議員からの推薦も受けることにした。事務局へ推薦された候補者については、学術委員長名で推薦されている旨伝え、応募を勧めることにした。なお、宿題報告候補者の応募締切りを、来年度は8月31日にすることとした。
- ② Pathology Internationalのオンライン化については、刊行費の削減という意味で検討を始めた。これにより、科研費の申請は来年度は行なわないことにした。今後オンライン化をどのようにすすめるか（オンラインオンリーも含め）、出版社の値引き額も踏まえて検討していく。
- ③ 市民公開講座を学術集会の一部にしてはどうかの意見や、あるいは、別日程で開催してはどうかの意見も出ているので、今後検討していくこととする。
- (7) 研究推進委員会（樋野興夫委員長）
- ① 第4回病理学会カンファレンスを、平成19年7月27日・28日に旭川医大小川勝洋教授を世話人に開催した。テーマは「肝臓疾患の現状と課題」であり、約90名が参加した。
- ② 第7回技術講習会を、平成19年12月5日（秋期特別総会前日）に国立がんセンター東病院落合淳志部長を世話人に開催した。役60名の参加である。
- ③ 第5回病理学会カンファレンスは、平成20年8月1日・2日に国立成育医療センター梅澤明弘部長を世話人に湘南国際村にて開催する。テーマは「がん幹細胞」である。一部市民に公開できないかを検討中である。
- ④ 第8回技術講習会は平成20年11月19日（秋期特別総会前日）に東京医科歯科大学北川昌伸教授を世話人に開催する。
- (8) 編集委員会（恒吉正澄委員長）
- ① Pathology Internationalの2006年の投稿数は260編程度で例年並みである。採択率は約50%である。2006年のインパクトファクターは1.108であった。オンライン化について検討した。
- ② 「診断病理」は年間90編を掲載した。オンライン化について検討を始めた。
- ③ 剖検輯報は、第49輯を作成中であり、11月30日までの登録は515施設、約9,600対である。
- (9) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
- ① 病理専門医の資格更新審査を行なった。
- ② 新規の施設認定審査を行なった。平成18年度より大病院（分院を含む）も研修施設（認定施設あるいは登録施設）として認定審査を行なっている。新しい分院については、開設の年は実績がないため、申請を受け付けることはできない。
- ③ 平成20年度病理専門医試験は、平成20年7月26日・27日に東京医科歯科大学を会場に実施予定である。平成21年度・22年度は京都府立医大を会場に実施する。
- ④ 平成20年の細胞診講習会は3月22日・23日に、日本大学にて実施予定である。
- (10) 口腔病理専門医制度運営委員会（林 良夫委員長）
- ① 口腔病理専門医研修要綱を検討中である。
- ② 口腔病理専門医の資格更新審査を行なった。
- ③ 病理専門医部会に口腔病理専門医も含むことが検討されている。
- (11) 教育委員会（堤 寛委員長）
- ① 病理各論コア画像のブラッシュアップを、若手（研修

医レベル)の意見も取り入れてすすめることにした。

- ② 平成20年春の病理学会時の学生ポスター募集を支援する。
 - ③ CPCレポートについて、レポート集を作成している施設があるので、広く声をかけて収集したい。
 - ④ 来年度の教育ワークショップは、「病理各論教育」をテーマに開催する方向である。
- (12) 支部委員会(小川勝洋委員長)
- ① 各地域のがん対策推進計画に病理診断・細胞診の重要性を主張する内容を盛り込むよう検討する。
 - ② 病理業務量の見直しについて医療業務委員会でその目的などの基本的な方針を示してもらった上で引き続き検討する。また、現在の認定施設・登録施設の調査方法についても医療業務委員会で検討していただくことが望ましい。
 - ③ 病理分野への新しい人材の加入状況を調査する。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成20年度/21年度役員選出の件
新役員の選出は、選挙管理委員会から報告のあったとおり承認した(総会協議事項)
2. 平成20年度事業計画並びに収支予算に関する件
真鍋俊明財務委員長より、事業計画並びに収支予算について説明があった。収入案は、201,267千円、支出案は、199,980千円である。協議の結果、原案のとおり承認した(総会協議事項)。
3. 第55回(平成21年度)秋期特別総会会長の件
長村理事長より第55回秋期秋期特別総会の会長に応募のあった松原 修教授(防衛医科大学校)がプログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果、原案のとおり承認した(総会協議事項)。
4. 第99回(平成22年度)総会会長の選出の件
長村理事長より第99回総会の会長に応募のあった候補者につきプログラム推進委員会の意見をつけて紹介された。協議の結果樋野興夫教授(順天堂大学)に決定した(総会協議事項)。
5. 第98回(平成21年度)総会宿題報告担当者等の選出の件
岡田保典学術委員長より、以下のとおり推薦された。宿題報告担当候補者には、深山正久(東京大学)、笹野公伸(東北大学)、笹栗靖之(産業医科大学)の3名、秋期学術集会シンポジウムは、「プロテオームと病理学の接点」を、病理診断シリーズの講演者には、清水道生(埼玉医科大学)、阿部正文(福島県立医科大学)の2名である。協議の結果、いずれも原案のとおり決定した。
6. 会員の海外派遣並びに外国学会会員の招聘等に関する件
笹野国際交流委員長に代わり根本則道理事委員より、各事業について推薦された案件につき協議の結果、次のとおり決定した。平成20年度海外病理学者・研究者の招聘事

業は、安田政実(埼玉医科大学)担当の1件。平成19年度(前期)海外病理学会参加支援事業は、加藤哲子(山形大学)、和仁洋治(倉敷中央病院)各会員の2名。英国病理学会との交流事業については、学会参加を含めての海外派遣事業に平林健一(東海大学)、中黒匠人(公立陶生病院)の2名。英国病理学会参加に長谷川正規(名古屋大学)、堀田綾子(杏林大学)の2名。

7. 名誉会員の有資格者に関する件
平成20年度新名誉会員の有資格者名簿(168名)を承認し、確認、推戴作業に入ることにした。
8. 新入会員の承認の件
長村理事長より、平成19年度新入会員上期(平成19年4月1日~11月31日)113名が諮られ、協議の結果、原案のとおり承認した。
9. Pathology International のオンライン化の件
学術委員会および編集委員会で検討された標記の件については、進める方向で承認した。今後は冊子体を残したオンライン化か、オンラインオンリーかについて、出版社の経験も参考にしながらさらに検討することとした。
10. 市民公開講座の件
総会時に開催している市民公開講座は、会長の意向によるところであるが、これについては別日程で開催することも考えることにして、企画委員会の下で総合的な委員会を立ち上げて検討することとした。常任理事会より提案された標記のことにつき審議した結果、原案通り決定した。

◇**会員総会**：平成19年12月6日(木)に江戸川区総合区民ホールにて、正会員3,656名のうち1,928名(うち委任状出席者数1,723名)の出席を得て開催された。

議長に向井 清第53回秋期特別総会会長を選び議事を進行した。議事録署名人に出席者代表として、青木一郎(横浜市立大学)、岩崎 宏(福岡大学)の両会員が指名された。

○報告事項

1. 常任理事会報告
 - (1) 長村義之理事長
 - ① 平成19年11月30日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,567名、一般会員2,093名、名誉会員、256名、学生会員1名の3,917名である。賛助会員4名、機関会員84名である。
 - ② 病理学会HPに“病理学会カレンダー”として支部会、セミナーの年間スケジュール一覧を掲載する。会務報告も適宜掲載する。
 - ③ 日本がん治療認定医機構より、連携・協力および関連学会連絡委員会への参加の有無について問い合わせがあったので、いずれも有りと回答した。また、認定制度の適用申請については本学会からは申請しないと回答した。

また、8月28日の第1回関連学会連絡委員会に黒田理事が出席した。同機構の細則にある「基本領域の学会」に日本麻酔学会と日本病理学会が追加されたと報告された。

- ④ 「日母分類改定のためのワーキンググループ」の病理側委員として坂本穆彦教授と森谷卓也教授を推薦した。婦人科細胞診クラス分類は廃止の方向である。
 - ⑤ 教育委員会ワークショップのアウトカムを基盤として「病理医育成に関する要望書」を文部科学省医学教育課長へ提出することとし、準備中である。
また、厚労省向けの要望書については、企画委員会、認定医精度運営委員会などと相談し作成することとした。
 - ⑥ がん対策基本法、がん対策推進基本計画などについては、日本臨床細胞学会と協同で、支部を通して各都道府県に「病理診断、細胞診断の重要性」を強調した要望書を提出し、がん医療における病理医の役割を明確にすることとした。
 - ⑦ 支部委員会としては、下記のことを検討した。
 - 1) 各地域のがん対策推進計画に病理診断・細胞診の重要性を主張する内容を盛り込むよう検討する。
 - 2) 病理業務量の見直しについて医療業務委員会での目的などの基本的な方針を示してもらった上で引き続き検討する。また、現在の認定施設・登録施設の調査方法についても医療業務委員会で検討していただくことが望ましい。
 - 3) 病理分野への新しい人材の加入状況を調査する。
 - ⑧ 日本学会会議公開講演会「医療関連死を考える一解剖に基づく新たな死因究明制度」は平成20年3月21日に東京大学医学部大講堂で開催される。
 - ⑨ 国際交流委員会では、学会参加支援2名、国内学会への招聘1件、海外派遣2名英国との学術交流2名を決定した。
 - ⑩ 逝去された妹尾左知丸名誉会員より日本病理学会会誌のバックナンバーが寄贈された。
 - ⑪ 2014年に向けてWHO ICD11を策定中であるが、これに病理学会からも委員を出せるよう厚生労働省担当部署に要望した。
 - ⑫ 現在定例の税務調査に対応中である。
 - ⑬ 新公益社団法人申請については、2年後くらいを目途に準備を進めている。
- (2) 深山正久副理事長（企画委員会）
 - ① 若手のリクルートに関する活動としては、若手医師確保に関する小委員会（大橋健一委員長）のもとで、後期研修プログラムの情報を集めた小冊子を作る計画や、医学生ためのレジナビフェアへの参加を行なっている。
 - ② 臨床医学との対話促進の意味で、「診断病理サマーフェ
- スト：病理と臨床の対話」を開催した。第1回は2007年8月11・12日東京大学にて、婦人科病理を中心に行なった。約200名の参加があり、病理40%、婦人科40%、放射線科20%ということで、臨床との対話という意味では成功であった。第2回は京都にて「肺の臨床・画像・病理」をテーマに8月23日・24日開催される。第3回のテーマは「軟部腫瘍」ということで計画している。
 - ③ 日本病理学会創立百周年記念事業として実行委員会を立ち上げた。委員長：森 亘先生、委員長代理：町並陸生先生、副委員長：秦 順一先生と森 茂郎先生、事務局長：深山正久を決定した。また、理事経験者に発起人になっていただいた。
 - ④ 公益法人制度の改定に伴い、新公益法人への移行を申請する必要がある、これを機会に病理学会機構改革の必要性の有無、学術評議員会の在り方、専門医部会との関係、会費の見直し等を検討することとした。2年後くらいに新公益法人へ申請したい。
 - ⑤ 人材育成と地方基幹病院への配置を目的に「病理専門家養成プログラム」として、後期研修医枠（全国で20～50名 4年間）の財政的援助を厚生労働省に要望することとした。
 - ⑥ 市民公開講座への取り組みとして、プランニングの委員会立ち上げを検討している。
- (3) 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会・研究推進委員会・編集委員会）
 - ① 学術委員会
 - i. 宿題報告の選考を行ない、深山正久（東京大学）、笹野公伸（東北大学）、笹栗靖之（産業医科大学）の各学術評議員に決定した。
 - ii. 平成20年度秋期学術集会のシンポジウムのテーマとして「プロテオームと病理学の接点」に決定した。
 - iii. 平成20年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「皮膚付属器の病理診断（仮題）：清水道生（埼玉医科大学）」と「悪性リンパ腫の診断（仮題）：阿部正文（福島県立医科大学）」に決定した。
 - iv. 宿題報告の推薦、応募の締切りを来年度は8月31日とすることとした。
 - v. 市民公開講座の件では、小委員会を設けて検討することにする。
 - vi. Pathology International のオンライン化については、刊行費の削減という意味で検討を始めた。会員には基本的にはオンラインにて配信し紙媒体は希望者に別料金にて配布するか、あるいはオンラインオンリーにするか、これから検討していく。科研費への申請は行なわなかった。
 - ② 研究推進委員会
 - i. 第4回病理学会カンファレンスを、平成19年7月

27日・28日に旭川医大小川勝洋教授を世話人に開催した。テーマは「肝臓疾患の現状と課題」であった。第5回病理学会カンファレンスは、平成20年8月1日・2日に国立成育医療センター梅澤明弘部長を世話人に湘南国際村にて開催する。テーマは「がんと幹細胞」である。一部市民に公開できないかを検討中である。

- ii. 第7回技術講習会を、平成19年12月5日（秋期特別総会前日）に国立がんセンター東病院落合淳志部長を世話人に開催した。第8回技術講習会は平成20年11月19日（秋期特別総会前日）に東京医科歯科大学北川昌伸教授を世話人に開催する。

③ 編集委員会

- i. Pathology International の2006年の投稿数は260編程度で例年並みである。採択率は約50%である。2006年のインパクトファクターは1.108であった。
- ii. 「診断病理」は年間90編を掲載した。オンライン化について検討を始めた。
- iii. 剖検輯報は、第49輯を作成中である。

(4) 黒田 誠常任理事（病理専門医部会・口腔病理部会）

① 病理専門医制度運営委員会

- i. 平成20年度病理専門医試験は、平成20年7月26日・27日に東京医科歯科大学を会場に実施予定である。
- ii. 平成19年度試験からは、出願時（4月末日）に死体解剖資格および細胞診講習会受講証明書が出願時必要となっている。
- iii. 平成20年の細胞診講習会は3月22日・23日に、日本大学にて実施予定である。
- iv. 平成18年度より大学病院（分院を含む）も研修施設（認定施設あるいは登録施設）として認定審査を行っている。新しい分院については、開設の年は実績がないため、申請を受け付けることはできない。
- v. 第97回総会（金沢）での病理診断講習会の実施内容は決定済みである。総会の内容にあわせて修正されている。

② 医療業務委員会

- i. コンサルテーション小委員会
依頼用紙と報告用紙を紙媒体でなく、メール添付にてやりとりすることが検討されている。
- ii. 社会保険小委員会
平成20年度の診療報酬改定では、病理診断が検体検査から独立することが、11月16日開催の中医協にて承認された。
- iii. 剖検・病理技術小委員会
IHE-J協会（医療情報の国際標準化の協会）の正式に会員になることになった。
ホルマリン規制改正に対してのマニュアルを、日本

医大千葉北総病院の技師清水秀樹氏が作成したので、適切な形で病理学会ホームページに掲載する予定である。

病理医の業務量の調査を支部委員会と協同で継続して行なっていく。

iv. 精度管理小委員会

病理診断依頼書用紙のガイドライン作成は終了し、医療業務委員会にて検討中である。病理診断報告書様式のガイドラインの作成を継続して検討中である。

v. 癌取扱い規約小委員会

診断入力ソフトの作成を試みている。

③ 口腔病理部会

口腔病理専門医研修要綱を検討中である。医科と同様に口腔病理専門医部会を検討中である。

2. 特別報告

(1) 診療標榜科 病理診断科について

長村理事長より、医道審議会医道分科会診療科名標榜委員会において、「病理診断科」の標榜が承認された（平成19年9月21日）ことの報告があった。今後の予定としては、平成20年4月1日を目途に政令・省令の整備がなされることになっている。これに関連しては病院の病理診断部門においては臨床科と連携しての患者サービスが求められる。また、個人の開業や登録衛生検査所病理についても、今後の課題となっている。

(2) 平成20年度診療報酬改定について

長村理事長より、平成20年度の診療報酬改定において、「病理診断」が従来の第3部第2節病理学的検査料から独立して、第13部（仮）として新設されることが中医協基本問題小委員会にて了承されたと報告された。これに関連しては、医療業務委員会社会保険小委員会の努力により、病理の重要性を度々訴え、内保連の最重要提案3項目の一つになった。さらに中医協委員への折衝や舛添厚労大臣との面談も経て、11月16日の中医協基本問題小委員会にて了承されるにいたった。今後は社会保障審議会による改定の基本方針に基づいての実務作業（中医協）に入る。さらに、改定案に対するパブリックコメントを求めた後、厚生労働大臣に対して改定案の答申がなされることになっている。来年4月からの施行である。このほか、診療報酬改定に関しては、合計10項目ほどの要望もしている。

(3) 死因究明のための事故調査委員会について

長村理事長より、現在の状況について報告があった。「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」についての厚生労働省試案が平成19年3月9日に公表され、これに関しての意見募集があった。病理学会としては、基本原則として次のとおりの意見を提出した。1) 診療関連死は、すべて速やかに調査機

関に届出を行い、医療過誤死である場合のみ、調査機関から異状死として警察に届ける。2) 診療関連死のうち医療事故死、過誤死の疑いのあるものは、解剖（原則として病理解剖）に基づく調査を行なう。3) 調査機関の報告書を懇切に遺族に解説する医学アドバイザーを配置する。4) 調査機関の中央組織として、事例収集・分析センターを設置し、再発防止のための提言を行なう。

「診療行為に関連した死亡に係わる死因究明等のあり方に関する検討会」は8月までに7回開催され、10月17日には第二次試案が出された。また、11月30日には自民党から「診療行為に係わる死因究明制度等について（案）」が公表された。

病理学会ではこれに関連して、病理学会認定施設・登録施設に対しアンケートを行なった。

それによると、新制度への参加については61%、臨床立会医の対応可能（予想）31%との結果であった。また、一施設あたり解剖可能な件数/年は2.5件、当番可能な日数/月4.1日であり、他施設への出向可能62/205施設であった。

今後は、解剖への財政基盤や病理医の増加、育成・教育など問題点を検討し、厚生労働省に要望していく必要があろう。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定された。

1. 平成20年度/21年度役員選任の件
平成20年度/21年度の役員（理事・監事）は、以下のとおり選任された。なお、就任日は、平成20年4月1日からとする。
2. 平成20年度事業計画ならびに予算に関する件
事業計画ならびに収支予算は、原案のとおり決定した。
3. 第55回（平成21年）秋期特別総会会長選出の件
松原 修教授（防衛医科大学校）が推薦された。協議の結果、原案のとおり決定した。
4. 第99回（平成22年）総会会長選出の件
樋野興夫教授（順天堂大学）が推薦された。協議の結果、原案のとおり決定した。

◇平成20年度/21年度役員を選任について：第53回秋期特別総会における会員総会で、社団法人日本病理学会新役員に以下の会員が選任された。なお、就任日は、平成20年4月1日からとする。

○理事：19名（ABC順）

理 事 長	長 村 義 之
理 事	青 笹 克 之
理 事	深 山 正 久
理 事	井 内 康 輝
理 事	覚 道 健 一
理 事	黒 田 誠

理 事	真 鍋 俊 明
理 事	松 原 修
理 事	本 山 悌 一
理 事	向 井 清
理 事	根 本 則 道
理 事	岡 田 保 典
理 事	坂 本 穆 彦
理 事	佐 藤 昇 志
理 事	白 石 泰 三
理 事	居 石 克 夫
理 事	寺 田 信 行
理 事	上 田 真 喜 子
理 事	山 口 朗

○監事：2名（ABC順）

監 事	石 原 得 博
監 事	太 田 秀 一

○支部長（兼務）：7名（地区順）

北 海 道	佐 藤 昇 志
東 北	本 山 悌 一
関 東	根 本 則 道
中 部	白 石 泰 三
近 畿	寺 田 信 行
中国四国	井 内 康 輝
九州沖縄	居 石 克 夫

◇平成20年度事業計画並びに収支予算について：社団法人日本病理学会平成20年度事業計画並びに収支予算は、以下のとおりである。

○平成20年度事業計画

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

〔事業の概要〕

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 第97回日本病理学会総会（於金沢・中沼安二会長）
- (2) 第54回日本病理学会秋期特別総会（於松山・植田規史会長）

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第5回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 技術講習会
- (5) 各支部における学術・研究集会
- (6) 第2回診断病理サマーフェスト

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行（第97巻第1～2号）
2. 「Pathology International」の発行（Vol. 58 4～12, Vol. 59 1～3）
3. 「診断病理」の発行（第25巻第2～4号, 第26巻第1号）

4. 「日本病理学会会報」の発行（第 243～254 号）
 5. 「病理専門医部会報」の発行（2008 年 第 2～4 号，2009 年 第 1 号）
- III. 研究および調査
1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第 49 輯（平成 18 年症例）
 2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
 3. 剖検記録データベースの再構築
- IV. 病理専門医等の資格認定
1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施および資格の更新
 2. 病理専門医の広告
 3. 研修手帳の実施
 4. 研修施設の認定および資格の更新
- V. 学術団体との協力，連絡
1. 学術団体等との会議共催および後援
 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
 3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣，学術交流
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流
- VI. その他目的を達成するために必要な事業
1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
 2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
 3. 日本病理学会学術研究賞（A 演説）の授与
 4. 会員の海外派遣
 5. 病理学卒前教育の充実
 6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
 7. インターネットホームページの充実
 8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
 9. 病理専門医制度運営，医療業務，学術・研究等の各種委員会の開催

○平成 20 年度収支予算

学術集会の補助金を，春期 100 万円から 300 万円へ，秋期 50 万円から 100 万円に増額することとした。

（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	17,000	1,000	16,000
2. 会費収入	72,680,000	73,430,000	△ 750,000
正会員・学術評議員会費	30,000,000	31,000,000	△ 1,000,000
同 終身会費	3,000,000	3,000,000	0
同 一般会員会費	27,000,000	27,000,000	0
学生会員会費	30,000	30,000	0
賛助会員会費	250,000	250,000	0
機関会員会費	400,000	450,000	△ 50,000
病理専門医部会費	12,000,000	11,700,000	300,000

3. 事業収入	120,050,000	110,500,000	9,550,000
学術集会収入	80,000,000	70,000,000	10,000,000
論文掲載料収入	850,000	3,000,000	△ 2,150,000
広告料収入	700,000	1,000,000	△ 300,000
刊行物発行収入	15,000,000	15,000,000	0
専門医制度収入	15,000,000	15,000,000	0
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0
講習会等収入	2,500,000	500,000	2,000,000
賠償責任保険事務費収入	2,000,000	2,000,000	0
4. 補助金収入	5,000,000	11,000,000	△ 6,000,000
5. 繰入金収入	2,600,000	2,500,000	100,000
学術医療基金繰入金収入	2,600,000	2,500,000	100,000
6. 雑収入	920,000	1,505,000	△ 585,000
受取利息収入	120,000	5,000	115,000
雑収入	800,000	1,500,000	△ 700,000
当期収入合計 (A)	201,267,000	198,936,000	2,331,000
前期繰越収支差額	43,564,000	39,758,000	3,806,000
収入合計 (B)	244,831,000	238,694,000	6,137,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
II. 支出の部			
1. 事業支出	162,000,000	157,800,000	4,200,000
学術集会経費	84,500,000	71,800,000	12,700,000
学会誌発行経費	32,000,000	37,000,000	△ 5,000,000
会報発行経費	2,500,000	3,500,000	△ 1,000,000
剖検輯報刊行経費	11,000,000	14,000,000	△ 3,000,000
専門医制度運営経費	9,000,000	8,500,000	500,000
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0
支部運営経費	6,000,000	6,000,000	0
学術奨励等経費	4,500,000	4,500,000	0
講習会等経費	2,000,000	1,000,000	1,000,000
各種委員会経費	2,500,000	3,500,000	△ 1,000,000
2. 管理費	32,680,000	32,030,000	650,000
人件費	15,000,000	15,000,000	0
福利厚生費	1,800,000	1,500,000	300,000
交通費	350,000	500,000	△ 150,000
通信運搬費	2,500,000	3,000,000	△ 500,000
会議費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
印刷費	2,000,000	2,000,000	0
備品費	200,000	200,000	0
消耗品費	400,000	400,000	0
水道光熱費	230,000	230,000	0
賃借料	2,600,000	2,600,000	0
諸会費	800,000	800,000	0
補助費	200,000	200,000	0
修繕費	100,000	100,000	0
嘱託費	2,000,000	1,500,000	500,000
租税公課(消費税等)	3,000,000	2,000,000	1,000,000

雑費	500,000	500,000	0
3. その他	4,300,000	4,300,000	0
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療基金引当預金 繰入支出他	2,700,000	2,700,000	0
4. 予備費	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計 (C)	199,980,000	195,130,000	4,850,000
当期収支差額 (A-C)	1,287,000	3,806,000	△ 2,519,000
次期繰越収支差額 (B-C)	44,851,000	43,564,000	1,287,000

◇第97回総会(平成20年度): 金沢大学を世話機関として中沼安二会長、大井章史副会長のもとで、平成20年5月15日(木)～5月17日(土)の3日間、石川県立音楽堂にて開催された。

宿題報告は、安井 弥教授(広島大学)による「胃癌の Transcriptome dissection-組織からのシーズ発見とその診断・治療への展開」、佐藤昇志教授(札幌医科大学)による「ヒトがん免疫制御の分子病理学的基盤」、岩崎 宏教授(福岡大学)による「軟部腫瘍の病態-日常の診断から実験的探索へ-」の3題であった。

特別講演は、岡本 宏名誉教授(東北大学)による「細胞の死と再生からの人の生死まで」、Linda Ferrell 博士(University of California San Francisco)による「Nonalcoholic Steatohepatitis」の2題、教育講演は、船橋 徹教授(大坂大学)による「メタボリックシンドロームとアディポサイトカイン」、中沼安二教授(金沢大学)による「IgG4 関連硬化性疾患の病理」の2題が行なわれた。一般演題は、1,048題が発表された。

このほかシンポジウム3件、ワークショップ9件、ランチョンセミナー12件、カンパニオンミーティング1件の発表と討論があった。学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的病理診断講習会(肝炎、肝血行障害・炎症、肝腫瘍、胆嚢)および臓器別病理診断講習会(肝・胆嚢、中枢神経系、口腔・頸頭部、造血器・リンパ節)が開かれた。

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第54回(平成20年度)秋期特別総会
世話機関: 愛媛大学
会 長: 植田規史教授
会 期: 平成20年11月20日(木)～21日(金)
会 場: 松山市総合コミュニティセンター
- 2) 第98回(平成21年度)総会
世話機関: 京都大学
会 長: 真鍋俊明教授
会 期: 平成21年5月1日(金)～3日(日)
会 場: 京都国際会館
- 3) 第55回(平成21年度)秋期特別総会
世話機関: 防衛医科大学校
会 長: 松原 修教授

会 期: 平成21年11月19日(木)～20日(金)

会 場: 九段会館(東京)

4) 第99回(平成22年度)総会

世話機関: 順天堂大学

会 長: 樋野興夫教授

会 期: 平成22年4月27日(火)～29日(木)

会 場: 新宿京王プラザホテル

◇上記特別総会に関連して開催された理事会、学術評議員会、病理専門医部会並びに総会について: 平成20年2月27日に東京・学士会分館、および5月14日にホテル日航金沢にて理事会が開催され、5月15日には学術評議員会・病理専門医部会、5月16日には総会が開かれた。総会の席上で、第9回(平成19年度)学術奨励賞授賞式が行われた。

これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長および部会長の報告があった。

協議事項としては、総会においては平成19年度事業報告並びに収支決算報告、新名誉会員23名の推戴者並びに新学術評議員33名の候補者が協議され、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

このほか、理事会では、常置委員会学術評議員新委員の選出、平成19年度下期の新入会員43名(年度合計155名)が、それぞれ原案のとおり承認された。

また、学術評議員会では、「若手のリクルートに関する活動・100周年記念事業・病理学会機構改革」(深山企画委員長)などが、病理専門医部会では、「病理関係診療報酬の改定について」(稲山社会保険委員長)など、それぞれ報告・討議が行われた。

◇春期理事会: 平成20年2月27日(水)に学士会分館にて春期理事会のほか学術委員会等が開催された。理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、林 良夫、樋野興夫、井内康輝、中島 孝、中沼安二、根本則道、小川勝洋、坂本穆彦、笹野公伸、澤井高志、居石克夫、恒吉正澄、堤 寛(以上理事)、松原 修、手塚文明(以上監事)、大藪いづみ、菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者代表として笹野公伸、居石克夫両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 標榜科について

診療科標榜については、本日(2月27日)に政令・省令が公布された。運用については、5月の金沢で開催するワークショップまでには厚労働省からの指導もあるはずなので、具体的な提言等をしていくこととした。また口腔病理部会林良夫部会長から口腔の標榜科および診療報酬改定についての要望書が提出されたので、これについては引き続き検討することとした。

- (2) 診療報酬改定について
平成 20 年度の診療報酬改定について、2 月 13 日に中医協より大臣への答申が出された。病理については、13 部として病理診断が新設されることとなった。ワンデーパソロジーは見送られた。2 月 14 日に厚労省がん対策推進室に“がん拠点病院におけるワンデーパソロジーの公費補助（平成 21 年度）”を提案した。
- (3) 情報の公開 Update について
常任理事会の議事録をその都度理事に発信することとした。
- (4) 文科省への要望書について
1 月 30 日に医学教育課長と面談した（長村理事長，井内理事，大菌事務局長 要望書：井内理事・教育委員会作成）。卒前の病理学教育への助成と，大学院への病理志望者への経済的助成の 2 点につき要望した。
- (5) 病理各論コア画像のブラッシュアップについて（教育委員会からの要望）
標記の件につき 100 万円の予算請求があったが，バーチャルスライドも視野に入れて次期の教育委員会に申し送ることとした。
- (6) ドイツとの交流事業について
平成 19 年度の交換留学生については，会報 1 月号で公募中である。
- (7) コンサルテーションでの国立がんセンターとの協力について
国立がんセンターよりコンサルテーションシステムの活用について相談があったので，医療業務委員会コンサルテーション小委員会にて検討することとした。
- (8) 新公益法人制度について
公益認定等委員会では質問の募集が行なわれており，主な質問については回答が公開される予定である。今後内閣府よりガイドラインのパブリックコメント募集があり，必要な調整を行なった上で，ガイドラインが決定・公表される予定とのことである。その後，当学会としてどのように対応するか検討していくこととする。
- (9) 税務調査について
追加調査資料を本郷税務署に提出したところである。収益事業への課税があるものと思われる。
- (10) 厚労省への要望書について
2 月 26 日厚労省担当官と面談し（長村理事長，深山副理事長），厚生労働大臣への要望書案を担当官に諮問した。
要望書 1：病理専門医養成プログラム設置にあたって（案）
～医療および診療関連死死因究明における病理解剖の重要性と病理医育成の必要性～
要望書 2：病理解剖費用の公費負担の要求（案）
～診療関連死の死因究明・初期研修における病理解剖の重要性～
- (11) 学術会議公開講演会“医療関連死を考える一解剖に基づく新たな死因究明制度”について
3 月 21 日に東大医学部大講堂で開催される標記の講演会につきポスターを作成し，日本病理学会認定施設および大学法医学教室へ送付することとした。
- (12) 死因究明検討会について
12 月 27 日，2 月 20 日の「診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会」の資料によると，現在 行政処分，届出の範囲が議論になっている。
- (13) 100 周年記念事業について
100 周年記念誌については，編集担当の森茂郎先生が準備を始められた。
- (14) 若手医師のリクルートについて
担当の委員会では，日本病理学会研修施設に対して研修の可否等につきアンケート中である。
- (15) 医学生のためのレジナビフェア参加について
東京会場（7 月 13 日 医学生対象）に参加することとした（ブース出展料 15 万円）。
- (16) 公開シンポジウム委員会（仮称）について
学術集会時に開催している一般公開シンポジウムについて学術集会会長に何らかの提案をできることはないか，標記委員会の立ち上げを学術委員会と企画委員会合同で検討することとした。
- (17) 病理学会カンファレンスについて
これを一般公開してはどうかとの研究推進委員会の意見もあるが，これについてはさらなる検討が必要である。
- (18) ホルマリンの規制について
3 月 1 日よりホルマリンの規制が変更されることに関して，谷山清己剖検・病理技術小委員会委員長および根本則道医療業務委員長名で，会員むけにホームページ掲載記事が作成された。広報委員会を経た後ホームページへ掲載した。
- (19) Pathology International のオンライン化について
標記の件につき，一部紙媒体を残す場合とオンラインオンリーにした場合の刊行費について，ワイリー社の担当者に確認中である。
- (20) 外保連について
平成 20 年度も継続して加盟することとした。
- (21) 外科関連学会協議会の指針について
平成 17 年 5 月に外科関連学会協議会より出されている「患者の病理検体（生検・細胞診・手術標本）の取扱い指針」について，臨床細胞学会が文言の追加（検査士教育）を要望したことに関しては，賛同することとした。
2. 各種委員会委員長報告
- (1) 企画委員会（深山正久委員長）
- ① 若手医師確保に関する小委員会では，病理研修の受け入れ体制について日本病理学会研修施設にアンケート調査を実施中であり，結果をホームページに掲載する

予定である。

- ② 診断病理サマーフェストは、来年(第2回)は京都、再来年(第3回)は東京にて開催の予定である。
 - ③ 一般公開シンポジウムのあり方(学術と社会の接点)については、研究推進委員会とも合同で検討していくことにしている。
 - ④ 後期研修4年(大学あるいは大病院で3年 地域中核病院で1年)への経済的支援を厚生労働省へ要望したが、難しいとの回答であった。
 - ⑤ 100周年記念事業の一環である記念誌の発行につき、編集担当の森 茂郎先生が準備を始められた。
 - ⑥ 澤井高志理事より、支部で開催している「夏の学校」の評価をすべきではないかとの意見が出された。
- (2) 学術委員会(岡田保典委員長)
- ① Pathology Internationalのオンライン化については、オンラインオンリーにした場合の刊行費についてワイリー社の担当者に確認中であり、その結果によって、冊子体も残すかオンラインオンリーにするか検討することとする。
 - ② 学術集会の改革については、4年後を目途にアンケート調査をすることにしている。
- (3) 病理専門医部会(黒田 誠部会長)
- ① 病理診断科の標榜については、5月の金沢での学会時にワークショップを開催する。
 - ② 病理専門医研修要綱の細目のうち、口腔部分の改訂につき口腔側からの申し入れがあったので改訂を了承した。試験実施委員会は合同で行なっているので、出題につき問題はないと思われる。
 - ③ 受験資格のうち、論文(学会)発表が3編以上必要であるが、1編も筆頭のものがないことについて問題ではないかとの意見があり、病理専門医制度運営委員会で検討することとした。
- (4) 広報委員会(坂本穆彦委員長)
- ① ホルマリンの規制が変更されることに関する記事ホームページに掲載した。
- (5) 研究推進委員会(樋野興夫委員長)
- ① 第5回日本病理学会カンファレンスは8月1日・2日、国立成育医療センター梅澤明弘部長を世話人に、湘南国際村にて開催される。
 - ② 来年の技術講習会は、東京医科歯科大学の北川昌伸教授の担当で開催される。
- (6) 医療業務委員会(根本則道委員長)
- ① 診療報酬改定について、平成22年度改定に向けてワンデーパソロジーの点数化等、検討に入っている。
 - ② 国立がんセンターよりコンサルテーションシステムの活用について相談があったので、医療業務委員コンサルテーション小委員会にて検討することとした。
 - ③ ホルマリン規制の変更については、さらに詳細な記事

をホームページに掲載するよう文言を調整中である。

- (7) 口腔病理専門医制度運営委員会(林 良夫委員長)
- ① 口腔病理専門医研修要綱等の改訂を行なった。
 - ② 病理診断科の標榜に伴い、口腔病理の今後についても検討をお願いしたい。
- (8) 教育委員会
- ① 井内理事委員より、文科省へ「病理診断学振興に関する要望書」を提出した旨の報告があった。今後も医学教育課へのパイプを持つ必要がある。
- (9) 国際交流委員会(笹野公伸委員長)
- ① ドイツ病理学会との交換留学については、2007年度として日本からの留学は公募中である。ドイツからの日本への留学は3年間ないので、この事業については今後見直しをする必要があると思われる。学術集会時の相互発表が妥当ではないか。
 - ② イギリス病理学会からの招待は、当初の2名から4名となったので、昨秋決定された4名全員がイギリスからの招待(登録費および宿泊費)となる。したがって、海外派遣事業の補助金2名分を4名に分割支給することとした。

○協議事項

1. 第54回(平成20年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説)・B演説担当者の選出の件

学術委員長より、標記特別総会における学術研究賞演説(A演説)・B演説候補として、それぞれ8題と2題の推薦があった。協議の結果、学術委員会の原案のとおり決定した(応募順)。

 - ・学術研究賞演説(A演説):
 - (1) 鈴木 貴(東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻病理検査学分野)
 - (2) 工藤保誠(広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学)
 - (3) 齋藤 剛(東京医科大学病理診断学講座)
 - (4) 福嶋敬直(東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野)
 - (5) 原田憲一(金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学)
 - (6) 木藤克己(愛媛大学大学院医学系研究科病態解析学講座分子病理学分野)
 - (7) 岩渕和也(北海道大学遺伝子制御研究所病態研究部門免疫生物分野)
 - (8) 杉野 隆(福島県立医科大学医学部病理学第二講座)
 - ・B演説:
 - (1) 田中水緒(神奈川県立こども医療センター病理科), 加藤啓輔, 五味 淳, 賀賀沢寿人, 田中祐吉
 - (2) 松山高明(国立循環器センター臨床検査部病理), 植田初江, 池田善彦, 鎌倉史郎, 小林洋一, 井上 紳
2. 第9回(平成19年度)学術奨励賞受賞者の選出の件

学術奨励賞選考委員長より、第9回(平成19年度)学術奨励賞受賞候補者として4名の推薦があった。協議の結果、原案のとおり決定した。学会時のポスターコーナーでも発表する。

- (1) 池田純一郎(大阪大学大学院医学系研究科病態病理学)
- (2) 宮川 文(京都大学医学部附属病院病理診断部)
- (3) 宇於崎 宏(東京大学医学部附属病院病理部)
- (4) 全 陽(金沢大学医学部附属病院病理部)

3. 平成20年度新名誉会員候補者名簿に関する件

平成20年度新名誉会員候補者の名簿(2月19日現在では、22名)を承認した。

4. 平成20年度新学術評議員候補者名簿に関する件

平成20年度新学術評議員候補者名簿(32名)を承認した。

◇**理事会**:平成20年5月14日(水)ホテル日航金沢にて理事会および各種委員会が開催された。理事会には長村義之、真鍋俊明、岡田保典、深山正久、黒田 誠、山口 朗、青笹克之、井内康輝、覚道健一、松原 修、本山梯一、向井 清、根本則道、坂本穆彦、佐藤昇志、居石克夫、寺田信行、上田真喜子(以上理事)、石原得博、太田秀一(以上監事)、大藪いづみ、菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行した。

議事録署名人には出席者を代表して青笹克之、覚道健一両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 平成20年度常置委員会委員については、各委員長より推薦のあった学術評議員委員について確認した。協議事項で諮る。
- (2) 診療標榜科、診療報酬改定について、会員向けおよび一般の方へ向けてのメッセージをホームページへ掲載することとし、長村理事長の試案を検討した。常任理事会で修正し、広報委員会を経た後ホームページに掲載した。
- (3) 平成22年度の診療報酬改定に向けては案を整理し、抜本的な改定を目指すこととする。
- (4) 学術会議公開講演会「医療関連死を考える一解剖に基づく新たな死因究明制度」は3月21日東大にて開催され、約170名の参加があった。
- (5) 病理診断科のあり方について谷山清己学術評議員の提案があり、現在の「病理診断体制専門委員会」にて検討することとした。これに伴い「病理診断体制専門委員会」を医療業務委員会の下でなく病理専門医制度運営委員会の下に改組することが検討された。
- (6) 新公益法人制度について公益認定等委員会では、主な質問について回答の公開を始めている。ガイドラインなどを踏まえて学会として今後検討していくこととする。また、機構改革についても、現在の選挙制度のあり方等を

向井清理事に提案を依頼した。

- (7) 学術集会時の収益事業についての法人事業税の確認を行った。
 - (8) Pathology Internationalを会員にはオンライン配信のみにし、希望者はワイリー社から直接購読とした場合の刊行経費について、ワイリー社から資料の提出があった。さらに検討を進め、来年には最終決定とすることとした。また「診断病理」のオンライン化については、現時点では「診断病理」の編集委員会では反対であるが、オンライン化した場合の発行費用の減額分について、調査することとした。
 - (9) 日本衛生検査所協会、日本臨床衛生検査技師会とは今後も継続して話し合いの会合をもつことを確認した。
 - (10) 理事長直轄の人材育成委員会(仮)を正式に「人材育成委員会」とし、上田委員長推薦の委員を了承した。また、「診断講習会委員」については、5月の病理専門医制度運営委員会に諮ることとした。各種委員会委員を理事会に諮り了承を得ることとする。
 - (11) 標榜科、診療報酬改定についてはご尽力いただいた各方面へ挨拶をすることとした。
 - (12) 死因究明に関する厚生労働省3次試案 パパコメについては、理事会の意見も入れた黒田理事作成案を検討した。さらに修正を加えた後、4月中に提出した。
 - (13) 地域病理ネットワーク小委員会については廃止の方向とする。そのほか「小」委員会とある委員会から「小」を除くことを理事会に提案することとした。
 - (14) 病理コンサルテーションの国立がんセンターとの協力体制については、コンサルテーション小委員会委員長と国立がんセンターの担当者が検討している。
 - (15) 向井清理事より提案された選挙制度改革案につき検討し、新公益法人法に照らしてさらに改革案を企画委員会で審議・検討してもらうこととした。
 - (16) 市民公開講座検討委員会については「企画委員会」の下に位置づけ、岡田理事を委員長とし構成委員を了承した。
 - (17) 100周年については、発起人と実行委員に委嘱状を送ることとする。また、発起人の名前を入れて、100周年記念事業の立ち上げを会員に正式に宣することとした。
 - (18) 病理専門医部会のあり方については、大学病院病理部連絡会を含めて改組(研修施設代表者会議)する方向を提案することとした。
 - (19) 各都道府県のがん対策推進計画に病理診断と細胞診断の充実を盛り込んでもらうよう、厚生労働大臣に要望書を提出した。
- ### 2. 各種委員会委員長報告
- (1) 企画委員会(深山正久委員長)
 - ① 若手医師確保に関する委員会では、日本病理学会研修施設に対して研修アンケートを施行し、情報をまもなくHPへUPする予定である。また、今後は「人材育

成委員会」の下で活動することになった。

- ② 「診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話」を、平成19年度より開催しており、臨床医の参加も多くあった。
 - ③ 100周年記念事業については、実行委員および発起人を決定した。本年度からの新理事にも発起人に加わっていただきたい。刊行委員会では森茂郎委員長が具体的な活動をはじめられることになっている。寄付については、新公益法人認定申請のタイミングをみる必要もある。記念事業の内容についてはバーチャルスライドセンターや50年誌のデジタル化などの案もあり、公募も考えている。
 - ④ 市民公開講座検討委員会は岡田保典理事を委員長として発足した。
 - ⑤ 新公益法人への移行を受けて、病理学会機構改革についても検討をしている。学術評議員制度については、アンケート調査をすることとした。選挙制度改革については、向井清理事の提案をもとに、検討を進める。なお、新公益法人法を十分理解して各改革を進める必要があるので、適任者をワーキンググループに加え、検討していくこととした。
- (2) 広報委員会（坂本穆彦委員長）
- ① 会員がPIN Online 閲覧する際の本学会会員専用ページからのアクセスを簡略化することとした。
 - ② 本年より「病理学会事業カレンダー」の運用を開始した。
 - ③ HPの情報量が増えたので古い情報を別にファイルにする。
 - ④ 会務報告を会報と同様に平成13年に遡ってPDFファイルによりHPに掲載する。1年当たり2万円の費用が発生するが、理事会にて了承された。
 - ⑤ 情報の発信にメーリングリストを使用することが理事会で検討された。支部でメーリングリストを管理して、本部より支部担当者に情報を発信したものを支部単位で会員に届ける方向とした。
- (3) 学術委員会（岡田保典委員長）
- ① 宿題報告の推薦・応募締め切りについては、学術評議員による宿題報告担当者の推薦(7月末)の後に、学術委員会から推薦された方に応募の依頼をする。また、推薦にかかわらず、最終的な応募締め切りは8月末である。
 - ② Pathol Int の on-line 化：On-line 化により、現時点では約700万円の値下げの回答が出版社よりあった。その場合、冊子希望者は8,000円で購入が可能である。これを会費に換算すると1,700円程度の年会費の値下げが可能となる。これらについては、2年以内に結論を出す必要がある。また、それに伴い会報のメーリングリストによる配信の可能性もあると思われる。
- ③ 市民公開講座は、病理学会として学術成果も含めて「病気についての市民公開講座」などの開催で社会に広くアピールする必要がある。市民公開講座を学術集会時に行なうか、独立して行なうかも検討した。その場合スポンサーを如何に見つけるかが問題となる。今後、「市民公開講座検討委員会」で審議することとした。
- (4) 研究推進委員会（青笹克之委員長）
- ① 研究推進委員会は病理学領域における研究活動推進のための事業の計画と実行を担当することを確認した。
 - ② 病理学会カンファランスについては、2008年は確定済みである。2009年は筑波大学加藤光保委員が世話人で、本年8月までに内容を立案することになっている。2010年は岡山大学松川昭博委員が担当することとした。
 - ③ 技術講習会については、2008年は東京医科歯科大学北川昌伸教授が担当である。2009年については今秋の学会時までには策定の予定である。
- (5) 編集委員会（向井 清委員長）
- ① Pathology International は投稿数が減少しているので、投稿を促す努力を編集長にお願いする。また、オンライン化についての説明を受け検討した。
 - ② 「診断病理」のオンライン化について編集委員にアンケートを実施中であり、雑誌の方向性について編集委員会で討論することになっている。
 - ③ 剖検輯報では科研費補助が不採択となった。これについてはデータの公開を求められているので、整備を行なっている。登録数・施設数は前年並みであった。
- (6) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）
- ① 病理診断科については、5月17日(病理学会第3日目)にワークショップを開催する。
 - ② 施設審査委員会については、認定施設と登録施設の更新審査を行なった。専任指導医の不在や剖検例の基準以下のため、若干の更新不可があった。
 - ③ 資格審査委員会については、今年7月26日・27日東京医科歯科大学にて開催される専門医試験の受験資格の審査を行なった(申請者93名)。組織診断に関する講習会の受講証明や、業績につき若干の疑義があり、問い合わせをすることとしている。
 - ④ 病理診断講習会は、今回より総会会長と相談して内容を決定した。また委員会の委員を従来の支部選出委員でなく病理専門医制度運営委員会で選出することとした。
 - ⑤ 病理専門医部会のあり方は、大学病院病理部連絡会議を含めて改組する方向が提案された。
 - ⑥ 生涯学習単位申請として次の2件につきそれぞれ5単位を認めた。
婦人科病理研究会 CAP-PIP の2件を承認
- (7) 医療業務委員会（根本則道委員長）

- ① 社会保険小委員会報告（委員長：稲山嘉明）
第13部病理診断が実現し、標榜診療科としての病理診断科の誕生と共に問題点の整理に着手した。診療報酬に関しては第13部の独立以外に文言の整理が行なわれた。これによりホスピタルフィーとドクターズフィーが明確になった。また、病理組織顕微鏡検査が病理組織標本作製へと変更になった。免疫染色と電子顕微鏡標本作製が加算ではなくなったので、過去に遡って行なった検査についても算定可能となった。ER、PgR検査を一緒に行なった場合には主たる病理組織標本作製料に180点を加算可能となった。病理診断料は診療所では算定不可なので、その改正をすでに要望している。病理診断科の標榜科に伴い、医療法上の開業は問題ないが、保険医療機関としての病理診断科の開設には問題点が多々あることが指摘されている。
- ② コンサルテーション小委員会報告（委員長：森永正二郎）
コンサルテーションの領域別症例数に関しては減少傾向にある。平成19年度は510件であった。がんセンターからのコンサルテーションシステムについての協力の申し入れを受けているが両者の目指す点には違いがあり、今後の話し合いが必要である。
- ③ 精度管理小委員会報告（委員長：羽場礼次）
病理診断依頼書、同報告書の書式に関するガイドライン作成が進んでいる。コントロールサーベイについて免疫組織化学（HER2免疫染色）の精度管理システム構築についての検討が進んでいる。
- ④ 剖検・病理技術小委員会報告（委員長：谷山清己）
ホルムアルデヒドの健康障害防止についての資料（医療機関向けと病理部を中心とした具体的対策）を病理学会HPにアップした。ニードルネクロブシー（針による死後組織採取検査）に関する問い合わせがあり、医事新報社へ誌上回答した。
- ⑤ がん取扱い規約小委員会報告（委員長：坂本穆彦）
本年度に改定が予定されている規約として乳癌、卵巣癌、口腔粘膜がある。また、次年度には胃癌が予定されている。
- ⑥ 病理診断体制専門委員会報告（委員長：水口國雄）
病理診断科の標榜科実現に伴い、平成20年度から本委員会を病理専門医制度運営委員会の下に位置づけ、新たに理事委員として黒田 誠、根本則道を加え、谷山 学術評議員が委員に加わった。新たな体制の下で、① 病院における病理診断科のあり方、② 個人開業に関する諸問題、③ 衛生検査所との関係を含めた話し合い等を進めていくことにしている。
- ⑦ 日本テレパソロジー・バーチャルマイクロスコープ研究会・会長の土橋康成学術評議員より、「バーチャルスライドを中心とした病理のIT化実態に関するアンケート調査について」協力依頼があったので協力することとした。
- (8) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
① 口腔病理専門医試験受験申請者7名があり、全員資格ありと認めた。
② 口腔病理専門医研修カリキュラムや研修指導医について今後検討していくこととした。
- (9) 教育委員会（覚道健一委員長）
① 病理各論コア画像の改訂を行なうこととした。その際、HPを通じて会員の意見を伺い、提供していただける画像を公募することとした。また、この改訂に参加する若手病理医の公募もすることとした。
② コア画像の改訂と合わせ画像の説明と、CBT対応の問題作成を検討することとした。
③ 学術集会での病理教育ワークショップ企画を推進する。また学生発表をpromoteするため、本年は3年連続して演題発表をしている学生に対して、教育委員会として特別表彰を行なう。
④ 卒後教育を担当する委員会とも密に協力し学部教育を充実させることとする。
- (10) 国際交流委員会（松原 修委員長）
① 国際交流事業を改めて会員へ周知徹底することとした。
② 事業の見直しでは、ドイツとの交流については日本からの派遣は続いているがドイツからの派遣はないので、イギリスとの関係のように学会でのシンポジスト・講演者の交流という形ではどうか検討した。また、海外派遣事業の見直しについて検討することとした。
③ アジアとの交流を検討する。
④ 海外参加事業については応募のあった米盛葉子先生の1件を了承した。
- (11) 支部委員会（居石克夫委員長）
① モデル事業について、現在は都道府県単位でなされているが、支部単位での対応などについても発言があった。
② 精度管理向上のため、支部でのコンサルテーションも活発化をはかっている。
③ がん対策推進基本計画について支部単位で各都道府県への働きかけをしていただきたいとの発言があった。
④ 病理医の適正配置について引き続き検討を行なうこととした。
- 協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。
1. 平成19年度事業報告並びに収支決算に関する件
真鍋財務委員長より、平成19年度事業報告並びに収支決算書（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）（案）の説明と提案があった。当期収入は210,289,808円、当

期支出は217,565,372円であり、当期収支差額は△7,275,564円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は54,750,056円である。当期収支差額が赤字であったのは、法人税の発生と、剖検輯報の科研費申請が不採択であったことが大きな原因である。法人税については、以前は税務署からの指導はなかったが1~2年前より各学会に調査が入るようになり、このたび当学会に調査・指導がなされた。収益事業として指摘されたのは、学術集会におけるランチョンセミナーや企業展示、本部会計のうち医師賠償責任保険事務収入、機関紙のロイヤリティー・著作権使用料などである。過去3年分（平成16年・17年・18年）の法人税の追徴課税は繰越金から納税することとする。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることとした。

2. 平成20年度各種委員会委員長・委員の選出の件

長村理事長より、平成20年度各種委員会委員長・委員の選出確認の提案があり、協議の結果、原案のとおり決定した。

また席上、学術奨励賞選考委員（役職指定以外6名）の選出を行った。投票の結果、青笹克之（委員長）、深山正久、井内康輝、松原 修、向井 清、坂本穆彦の各理事に決定した。

その他、日本医学会の評議員に長村義之理事長、連絡委員に岡田保典副理事長、用語委員に坂本穆彦理事、用語代委員に森永正二郎学術評議員を推薦し、ICD11の対応委員として根本則道理事（剖検情報委員長）を推薦した旨の報告が長村理事長よりあった。

3. 平成20年度新名誉会員の推薦に関する件

長村理事長より、平成20年度新名誉会員推薦者名簿(23名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認した。

4. 平成19年度新入会員の承認の件

長村理事長より、平成19年度新入会員名簿下期(平成19年12月1日~平成20年3月31日)分(43名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認した。

◇**会員総会**：平成20年5月16日(金)に石川県立音楽堂にて、正会員3,745名のうち1,912名(うち委任状出席者1,873名)の出席を得て開催された。議長に中沼安二会長を選び議事を進めた。議事録署名人には、出席者を代表して湊 宏(金沢医科大学)、安田政実(埼玉医科大学)の両会員が指名された。

○報告事項

1. 長村義之理事長(理事長報告 広報委員会 国際交流委員会 教育委員会 支部委員会)

① 理事長報告

- 1) 診療科標榜として病理診断科が認められた。会員向け、国民向けの記事をホームページに掲載している。本病理学会でワークショップを開催する。また、口腔病理部会から、標榜科および診療報酬改定についての検討して欲しいとの要望があった。
- 2) 平成20年度の診療報酬改定について、13部として病

理診断が創設された。また平成22年度の診療報酬改定に向けては案を整理し、抜本的な改定を目指すこととする。

- 3) 情報の公開 Update については常任理事会の議事録をその都度理事に発信することとした。
- 4) 1月30日に文部科学省医学教育課長と面談した。病理学の大学院への助成を要望した。
- 5) 国立がんセンターよりコンサルテーションシステムの活用について相談があったので、医療業務委員会コンサルテーション小委員会にて検討中である。
- 6) 新公益法人制度についてはアドホックの委員会を発足させ勉強をしていく。
- 7) 2月26日厚生労働省担当官と面談し、厚生労働大臣への要望書の相談を行なった。
要望書1: 病理医育成の必要性 要望書2: 病理解剖費用の公費負担の要求 である。
- 8) 学術会議公開講演会“医療関連死を考える—解剖に基づく新たな死因究明制度”について3月21日開催し、一般の方も含め、170名の参加があった。
- 9) 若手医師のリクルートに関連しては、日本病理学会研修施設に対して研修アンケートを施行し、情報をまもなくHPへ掲載する予定。
- 10) 医学生のためのレジナビフェア(7月13日 東京会場)に参加することとした。
- 11) 3月1日より施行されているホルマリンの規制について、谷山清己剖検・病理技術委員会委員長および根本則道医療業務委員長名で、ホームページに掲載した。
- 12) Pathology International のオンライン化につき、一部紙媒体を残す場合とオンラインオンリーにした場合の刊行費について、ワイリー社の担当者に確認しているところである。
- 13) 平成20年度常置委員会委員が決定し、また「病理診断体制専門委員会」を医療業務委員会下でなく病理専門医制度運営委員会の下に改組することとした。
- 14) 理事長直轄の人材育成委員会を正式に発足させた。
- 15) 地域病理ネットワーク小委員会については活動内容が他の委員会と重複する点もあり、当分の間休止の方向とする。そのほか「小」委員会とある委員会から「小」を除くことを決定した。
- 16) 市民公開講座検討委員会については「企画委員会」の下に位置づけ、岡田理事を委員長とし構成委員を了承した。
- 17) 死因究明に関する厚生労働省3次試案については、理事の意見を聞いてパブコメを4月内に提出した。
- 18) 日衛協、日臨技とは今後も継続して話し合いの会合をもつことを確認した。
- 19) タイ国 プリンズ マヒドール アウォードに前田

- 昭太郎先生（日本医大多摩永山病院病理部）を推薦した。
- 20) ICD11 の対応委員として根本則道理事（剖検情報委員長）を推薦した。
 - 21) 日本医学会の評議員に長村義之理事長，連絡委員に岡田保典副理事長，用語委員に坂本穆彦理事，用語代委員に森永正二郎学術評議員を推薦した。
- ② 広報委員会
- 1) 会員が PIN を Online 閲覧する際の本学会会員専用ページからのアクセスを簡略化することとした。
 - 2) 本年より「病理学会事業カレンダー」の運用を開始した。
 - 3) HP の情報量が増えたので古い情報を別ファイルにする。
 - 4) 会務報告を会報と同様に平成 13 年に遡って PDF ファイルにより HP に掲載する予定である。
- ③ 教育委員会
- 1) 病理各論コア画像の改訂を行なうこととした。その際，HP を通じて会員の意見を伺い，提供していただける画像を公募することとした。また，この改訂に参加する若手病理医の公募もすることとした。
 - 2) コア画像の改訂と合わせ画像の説明と，CBT 対応の問題作成を検討することとした。
 - 3) 学術集会での病理教育ワークショップ企画を推進する。また学生発表を promote するため，本年は 3 年連続して演題発表をしている学生に対して，教育委員会として特別表彰を行なう。
 - 4) 卒後教育を担当する委員会とも密に協力し学部教育を充実させることとする。
- ④ 国際交流委員会
- 1) 国際交流事業を改めて会員へ周知徹底することとした。
 - 2) 事業の見直しについて
 - i) ドイツとの交流について
日本からの派遣は続いているがドイツからの派遣はない。イギリスとの関係のように学会でのシンポジスト・講演者の交流という形ではどうか検討した。
 - ii) 海外派遣事業の見直しについて検討する。
 - 3) アジアとの交流を検討する。
 - 4) 海外参加事業については応募のあった米盛葉子先生の 1 件を了承した。
- ⑤ 支部委員会
- 1) モデル事業について，現在は都道府県単位でなされているが，支部単位での対応などについても発言があった。
 - 2) 精度管理向上のため，支部でのコンサルテーションも活発化をはかっている。
 - 3) がん対策推進基本計画について支部単位で各都道府県への働きかけをしていただきたいとの発言があった。
 - 4) 病理医の適正配置について引き続き検討を行なうこととした。
2. 深山正久副理事長（企画委員会）
- ① 「若手医師確保に関する委員会」は新たに発足した「人材育成委員会」の下で活動することとなった。人材育成委員会では，女性医師の問題についてアンケートをとる予定である。
 - ② 診断病理サマーフェストは 2008 年「肺疾患」をテーマに，8 月 23 日・24 日に京都で開催される。
 - ③ 百周年記念行事については，1-2ヶ月のうちに，会員に向けて趣意書を出し，記念事業の公募も行なう予定である。刊行物の策定も準備を始めるところである。100 周年記念式典は 2011 年の第 100 回日本病理学会総会時に行なう。
 - ④ 市民公開講座検討委員会を岡田委員長の下発足させた（学術委員会と企画委員会を母体に）。
 - ⑤ 病理学会機構改革については WG あるいは委員会を立ち上げ，新公益法人への移行，学術評議員会のあり方（アンケート），理事選挙改革等を検討していくこととしている。
3. 岡田保典副理事長・常任理事（学術委員会・研究推進委員会・編集委員会）
- ① 学術委員会
 - 1) 宿題報告の推薦・応募締め切りについては，学術評議員による宿題報告担当者の推薦（7 月末）の後に，学術委員会から推薦された方に応募の依頼をする。また，推薦の有無にかかわらず，最終的な応募締め切りは 8 月末である。
 - 2) Pathol Int の on-line 化：On-line 化により，現時点では約 700 万円の値下げの回答が出版社よりあった。その場合，冊子希望者は 8,000 円で購入が可能である。これを会費に換算すると 1,700 円程度の年会費の値下げが可能となる。これらについては，2 年以内に結論を出す必要がある。また，会報のメーリングリストによる配信の可能性を検討している。
 - 3) 市民公開講座は，病理学会として学術成果も含めて「病気についての市民公開講座」などの開催で社会に広くアピールすることも考えて，今後，「市民公開講座検討委員会」で審議する。
 - ② 研究推進委員会
 - 1) 第 5 回病理学会カンファレンスは，梅澤明弘国立成育医療センター部長を世話人に平成 20 年 8 月 1・2 日「がん幹細胞」をテーマに湘南国際村センターにて開催される。
 - 第 6 回病理学会カンファレンスは，加藤光保筑波大学

教授が世話人で開催される。

- 2) 第8回技術講習会は北川昌伸東京医科歯科大学教授が世話人で、平成20年度秋期特別総会の前日に、松山にて開催される。

③ 編集委員会

- 1) Pathology International に関しては、投稿数は年間253編程度で10%減であった。
今年度は微増傾向であるが、より多くの投稿をお願いしたい。なお、2007年のインパクトファクターが1.371と上昇しているとの報告が、後日出版社よりあった。
- 2) 「診断病理」の on-line 化について、経費の軽減を試算する。
- 3) 剖検輯報は第49輯の印刷中であり、17,785件の剖検例の収載となる。科学研究費が採択されなかったため、次回に向けて対策を検討し申請することとする。

4. 黒田 誠常任理事 (病理専門医部会)

① 病理専門医制度運営委員会

- 1) 病理診断科については、本年4月1日より診療標榜科として承認されている。今学会会期中にも、今後の対応についてワークショップを開催する。
- 2) 施設審査委員会については、認定施設と登録施設の更新審査を行なった。専任指導医の不在や剖検例の基準以下のため、若干の更新不可があった。
- 3) 資格審査委員会については、今年7月26日・27日東京医科歯科大学にて開催される専門医試験の受験資格の審査を行なった (申請者93名)。組織診断に関する講習会の受講証明や、業績につき若干の疑義があり、問い合わせをすることとしている。
- 4) 病理診断講習会については、総会長の意向を受け講習内容を組み立てていく方向である。
- 5) 病理専門医部会のあり方については、全国大学病院病理部連絡会議と連携も考え、今後検討することとした。
- 6) 生涯学習単位申請があった「婦人科病理研究会」と「CAP-PIP」の2件を承認した。

② 口腔病理専門医制度運営委員会

- 1) 口腔病理専門医資格審査委員会では、7名の受験資格審査を行なった。
- 2) 口腔病理専門医研修カリキュラムの検討をはじめた。

③ 医療業務委員会

- 1) 社会保険委員会 (稲山嘉明委員長)
第13部の創設の実現と、それに関する文言の整理を行なった。
- 2) コンサルテーション委員会 (森永正二郎委員長)
国立がんセンターとの協力関係について検討している。
- 3) 剖検・病理技術委員会 (谷山清己委員長)
ホルマリンについて、HPに掲載した。
- 4) 精度管理委員会 (羽場礼次委員長)

剖検依頼書・報告書のガイドライン策定を行なっている。

- 5) がん取扱い規約委員会 (坂本穆彦委員長)
本年度は、乳がん・卵巣がん・口腔粘膜がんの取扱い規約改定が検討されている。
- 6) 病理診断体制専門委員会 (水口國雄委員長)
本年度より、病理専門医制度運営委員会の下で活動をする。病院における病理診断科のあり方および開業、衛生検査所との関係等を検討していくこととしている。

○協議事項

1. 平成19年度事業報告並びに収支決算に関する件

真鍋財務委員長より、平成19年度事業報告並びに収支決算書 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで) (案) の説明と提案があった。また、手塚文明監事より監査結果報告があった。協議の結果、原案のとおり決定した。

当期収入は210,289,808円、当期支出は217,565,372円であり、当期収支差額は△7,275,564円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は54,750,056円である。

当期収支差額が赤字であったのは、法人税の発生と、剖検輯報の科研費申請が不採択であったことが大きな原因である。法人税については、以前は税務署からの指導はなかったが1～2年前より各学会に調査が入るようになり、このたび当学会に調査・指導がなされた。収益事業として指摘されたのは、学術集会におけるランチョンセミナーや企業展示、本部会計のうち医師賠償責任保険事務収入、機関紙のロイヤリティ・著作権使用料などである。過去3年分 (平成16年・17年・18年) の法人税の追徴課税は繰越金から納税することとする。協議の結果、提案は承認された。

また、各種団体との交渉ごとに対しては「渉外費」を支出してはどうかとの会場からの提案があり、了承された。

2. 新名誉会員の推戴に関する件

長村義之理事長より、平成20年度新名誉会員推戴者名簿 (23名) が諮られた。

協議の結果、原案のとおり決定した。

3. 新学術評議員の承認の件

長村義之理事長より、平成20年度新学術評議員名簿 (33名) が諮られた。

協議の結果、原案のとおり決定した。

◇新名誉会員の推戴について：平成20年度における新名誉会員は、下記の23名が推戴された。(ABC順)

柴本 忠昭	本間 学	石川 義磨	板橋 正幸
板倉 英世	笠原 正男	勝山 努	甲賀 新
宮田 幸忠	森 浩志	中田 勝次	並木 真生
岡村 明治	雑賀 興慶	斎藤 謙	坂江 清弘
笹生 俊一	丹下 剛	筒井 祥博	植松 邦夫
吉田 春彦	吉田 洋二	由谷 親夫	

◇**新学術評議員の決定について**：平成20年度新学術評議員は、下記の33名に決定した。(ABC順)

相田 順子	浅井 直也	榎本 泰典	富居 一範
堀井 理恵	池原 譲	時々 輪真由美	笠原 一郎
加藤 哲子	岸田由起子	小林 博也	小林 基弘
近藤 武史	近藤 智子	工藤 保誠	増本 純也
仲野 徹	中山 敏幸	緒形 真也	緒方 衝
大原関利章	榊原 綾子	坂下 直実	佐藤 勝明
関根 茂樹	下田 将之	竹内 賢吾	辻本 史朗
渡邊 みか	山野 三紀	山内 道子	安岡 弘直
横内 幸			

◇**平成19年度学術奨励賞の授与について**：平成20年5月16日の総会席上長村理事長から、第9回(平成19年度)学術奨励賞受賞者 池田純一郎(大阪大学)、宮川 文(京都大学)、宇於崎宏(東京大学)、全 陽(金沢大学)に賞状および記念品が授与された。

1. 「腫瘍における幹細胞の性格を規定する因子に関する研究」：池田純一郎(大阪大学大学院医学系研究科病態病理学)
2. 「肝移植後の急性および慢性拒絶反応,原因不明の慢性肝炎に関する臨床病理学的研究」：宮川 文(京都大学医学部附属病院病理診断部)
3. 「病理における情報技術の普及・啓発活動」：宇於崎 宏(東京大学医学部附属病院病理部)
4. 「胆道がんの発生・進展に関する病理学的研究：人体症例を中心に」：全 陽(金沢大学医学部附属病院病理部)(ABC順)

◇**学術研究賞(A演説), B演説の選考について**：第54回(平成20年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説), B演説については、それぞれ17題, 4題の応募があった。2月27日の学術委員会で審議し、投票の結果, 8題, 2題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞(A演説)(応募順)

1. 乳癌におけるアロマトラーゼの発現意義：鈴木 貴(東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻病理検査学分野)
2. 口腔癌の増殖および浸潤に関する分子病理学的研究：工藤保誠(広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学)
3. 滑膜肉腫における上皮間葉および間葉上皮移行—SYT-SSX融合遺伝子と細胞間接着蛋白の関与：齋藤 剛(東京医科大学病理診断学講座)
4. 脾腫瘍における間質浸潤・腫瘍間質の特徴—臨床病理学および網羅的遺伝子発現解析からのアプローチ：福嶋敬宜(東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野)
5. 胆道系自然免疫と病態形成への関与:胆道閉鎖症を中心

に：原田憲一(金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学)

6. ユビキチン様タンパク質の機能解析：木藤克己(愛媛大学大学院医学系研究科病態解析学講座分子病理学分野)
7. ナチュラルキラー T(NKT)細胞機能の分化と生体内における新しい役割：岩淵和也(北海道大学遺伝子制御研究所病態研究部門免疫生物分野)
8. 浸潤非依存性転移モデルの開発と分子メカニズムの解明：杉野 隆(福島県立医科大学医学部病理学第二講座)

B演説(応募順)

1. 融合遺伝子BRD4-NUT形成を伴う小児肺癌の2例：田中水緒(神奈川県立こども医療センター病理科), 加藤啓輔, 五味 淳, 気賀沢寿人, 田中祐吉
2. 不整脈治療後の心臓の病理学的解析—高周波カテーテル心筋焼灼術後症例での検討—：松山高明(国立循環器センター臨床検査部病理), 植田初江, 池田善彦, 鎌倉史郎, 小林洋一, 井上 紳

◇**平成20年度細胞診講習会**：根本則道(日本大学)世話人・清水道生(埼玉医科大学)モデレーターのもとで、平成20年3月22日(土)~23日(日)、日本大学にて実施され、90名が受講した。講師は、伴 慎一(埼玉医科大学), 廣瀬隆則(埼玉医科大学), 村田晋一(埼玉医科大学), 根本則道(日本大学), 桜井孝規(埼玉医科大学), 清水道生(埼玉医科大学), 清水禎彦(埼玉医科大学), 安田政実(埼玉医科大学), の8名であった。

◆**第26回病理専門医試験について**：平成20年度の病理専門医試験は、平成20年7月26日(土), 7月27日(日)に東京医科歯科大学にて実施された。90名が受験して、66名が合格した(合格率73.3%)。合格者氏名並びに病理専門医登録番号は、以下のとおりである(登録年月日：平成20年7月30日)。

平成20年度病理専門医合格者氏名

認定番号	姓 名		
2678	土居 正知	2693	石田 光明
2679	松崎 晶子	2694	阿保亜紀子
2680	山田 隆司	2695	高田 理恵
2681	松本 裕文	2696	井野元智恵
2682	本下 潤一	2697	稲村健太郎
2683	池田 博子	2698	飯田 真岐
2684	中村 聡子	2699	新村 和也
2685	佐々木英一	2700	馬場洋一郎
2686	青木 直子	2701	平橋美奈子
2687	増本 純也	2702	横田 亜矢
2688	森田あやこ	2703	佐久間香織
2689	小倉 豪	2704	竹内 真
2690	梶本 和義	2705	堀田 綾子
2691	玉橋うらら	2706	門田 球一
2692	石原 美佐	2707	村田 有也

2708	平林 健一	2726	玉川 進	1032	奥村 晃久	1081	上山 義人
2709	新井 恵吏	2727	和田 直樹	1033	清水 英男	1082	中村 克宏
2710	田村 保明	2728	松田 陽子	1034	新宅 雅幸	1083	若林 淳一
2711	坂谷 暁夫	2729	鈴木 智景	1035	林 透	1084	松本 俊治
2712	倉田 盛人	2730	那須 拓馬	1036	片山 正一	1086	間野 正平
2713	川崎 隆	2731	中西 勝也	1039	船田 信顕	1087	原武 讓二
2714	藤島 史喜	2732	武田麻衣子	1042	岡本 賢三	1090	自見 厚郎
2715	栗原 秀一	2733	金城佐和子	1043	柳下 三郎	1091	熊谷久治郎
2716	佐藤 慎哉	2734	向所 賢一	1044	二ノ村信正	1095	成田 竹雄
2717	濱田 義浩	2735	坂谷 貴司	1045	賀来 亨	1097	鹿毛 政義
2718	田中 朋子	2736	池部 大	1047	北村 成大	1098	徳永 藏
2719	原 由紀子	2737	中村 暢樹	1048	吉村 教嶧	1099	伊藤 信夫
2720	仙谷 和弘	2738	菅野 渉平	1049	小林 槇雄	1101	興梠 隆
2721	内田 克典	2739	臺 勇一	1050	服部 隆則	1104	福里 利夫
2722	中黒 匡人	2740	小豆畑康児	1056	佐々木真由美	1105	藤原 陸憲
2723	小田和歌子	2741	山本 浩平	1058	宮内 潤	1110	佐藤 昇志
2724	後藤 清香	2742	住吉 真治	1059	杉原 志朗	1113	秋月真一郎
2725	佐藤 永一	2743	杉田真太郎	1062	関谷 政雄	1117	小林 晏
				1064	奥田信一郎	1118	滝澤登一郎
				1065	本山 悌一	1119	内間 良二
				1067	菊井 正紀	1120	立野 紘雄
				1068	草間 博	1122	花田 正人
				1069	岩淵 啓一	1127	中本 周
				1072	西田 俊博	1130	宮原 晋一
				1073	荻野 哲朗	1131	池原 進
				1076	森山 伸一	1134	安原 正博
				1077	望月 洋一	1136	古本 勝
				1078	村岡 俊二	1138	高見 剛
				1080	手島 伸一	1139	天野 殖

◇第16回口腔病理専門医試験について：平成20年度の口腔病理専門医試験は、第26回病理専門医試験と同日、同会場で行なわれた。7名が受験して6名が合格した（合格率85.7%）。合格者氏名並びに口腔病理専門医登録番号は、以下のとおりである（登録年月日：平成20年7月30日）。

平成20年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号 氏名

136	浅野 正岳	139	石橋 浩晃
137	久保 勝俊	140	宇佐美 悠
138	佐藤由紀子	141	杉田 好彦

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について：資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は、以下のとおりである。

1. 病理専門医資格更新者氏名

第5回 認定 78名

更新期間 平成20年（2008年）4月1日から5年間

認定番号 氏名

998	建部 敦	1015	青笹 克之
1000	橋本 公夫	1017	猪山 賢一
1001	北市 正則	1018	森内 昭
1003	鳥山 寛	1019	辻 求
1005	橋詰 良夫	1020	横山 繁生
1006	工藤 玄恵	1022	堀江 弘
1008	磯田幸太郎	1024	古谷 敬三
1009	若田 泰	1027	宮本 誠
1010	古田 格	1028	渡辺 正秀
1013	岩瀬 裕郷	1030	宮本 祐一

第10回（第5回試験） 認定 69名

更新期間 平成20年（2008年）4月1日から5年間

認定番号 氏名

1309	野口 雅之	1327	伊藤 雅文
1310	安藤 政克	1328	逸見 明博
1311	川口 研二	1329	佐藤いづみ
1313	窪澤 仁	1330	山本 洋介
1315	里 悌子	1331	今井田克己
1316	門間 信博	1333	市原 周
1317	西上 隆之	1334	長廻 鍊
1318	廣瀬 隆則	1335	寺田 忠史
1319	山科 元章	1336	浦田 洋二
1320	深山 正久	1337	河原 栄
1322	和田 了	1338	中野 盛夫
1323	堀内 隆三	1339	伊藤 誠
1324	福田 精二	1340	佐賀 信介
1325	中西 邦昭	1341	入江 準二
1326	菅野 純	1342	前田 邦彦

1343 佐藤 昌明	1367 竹下 盛重	1678 河野 裕夫	1679 山本 智子
1344 島 寛人	1368 滝本 寿郎		
1346 矢花 正	1369 辻本 正彦		
1348 山川 光徳	1370 吉見 直己		
1349 坂田 一美	1372 吉野 正		
1350 清水 亨	1373 濱崎 周次		
1351 上原 敏敬	1374 池上 雅博		
1353 赤羽 久昌	1376 門田 永治		
1354 臺丸 裕	1377 増田 信二		
1355 深澤雄一郎	1379 下川 功		
1356 権藤 俊一	1380 梶村 春彦		
1357 平林かおる	1382 高橋 聖之		
1358 笠井 潔	1383 高松 哲郎		
1359 近藤 信夫	1384 山崎 等		
1360 中村 宣子	1385 江原 孝史		
1361 中野 龍治	1386 島田 修		
1362 小山田正人	1387 篠原 直宏		
1363 佐藤 英俊	1388 藤田 美俐		
1364 杉江 茂幸	1389 一迫 玲		
1366 高野 康雄			

第15回 (第10回試験) 認定 50名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

1627 梅北 善久	1652 谷澤 徹
1628 小島 英明	1653 福田 敏郎
1629 神尾多喜浩	1654 酒井 尚雄
1630 桑原 宏子	1655 辻村 亨
1631 藤井 丈士	1656 河村 康司
1632 高橋 智	1657 新垣 京子
1633 田村 元	1658 梅村しのぶ
1635 加藤 弘之	1659 鈴木 忍
1636 増田 友之	1660 堀 眞佐男
1637 奈良 佳治	1662 大西 博三
1638 八十嶋 仁	1663 田崎 和洋
1639 松下 能文	1664 折笠 英紀
1640 小川 博	1665 長嶋 洋治
1641 落合 淳志	1666 若山 恵
1642 金井 信行	1667 太田 浩良
1643 林 徳真吉	1668 秋山 太
1644 岩田 仁	1669 岩木 宏之
1645 春日井 務	1670 二階堂 孝
1646 望月 眞	1671 横崎 宏
1647 中島 収	1672 山田 茂樹
1648 加藤 厚郎	1673 山城 勝重
1649 坪田 ゆかり	1674 鍋島 一樹
1650 稲山 嘉明	1676 近藤 福雄
1651 伴 慎一	1677 丸塚 浩助

第20回 (第15回試験) 認定 65名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

1950 渡辺 次郎	1985 栗脇 一三
1951 生沼 利倫	1986 古川 徹
1952 小見山祐一	1987 小宮山 明
1953 三富 弘之	1988 大谷 博
1954 原 明	1989 加藤 俊男
1955 田中さゆり	1990 山内 直子
1956 大城真理子	1991 井出 良浩
1957 原田 大	1992 伊藤 彰彦
1958 楯 玄秀	1993 山元 紀子
1959 山本 隆嗣	1994 齋藤 生朗
1960 出射 由香	1995 森井 英一
1961 李 康弘	1996 齊尾 征直
1963 杉田 保雄	1998 阿部 光文
1964 山内 周	1999 津浦 幸夫
1965 元井 亨	2000 三上 哲夫
1966 原田 憲一	2001 喜友名正也
1967 清塚 康彦	2002 有馬 信之
1968 長田 道夫	2003 藤吉 行雄
1969 堂本 英治	2004 畠中 真吾
1970 羽賀 博典	2005 野沢 昭典
1971 横尾 英明	2006 河原 邦光
1972 元井 紀子	2007 小野 祐子
1973 佐藤 仁哉	2008 前島 威人
1974 鷹橋 浩幸	2010 松岡健太郎
1975 布村 眞季	2011 伊藤 智雄
1976 岡本 清尚	2012 市川 徹郎
1977 小山 正道	2013 橋本 優子
1978 高崎 隆志	2014 味岡 洋一
1979 山口 正明	2015 榎 政彦
1981 鈴木 貴	2016 成田 道彦
1982 工藤 英治	2017 駄阿 勉
1983 山岸晋一郎	2018 伊禮 功
1984 加藤 雅子	

第25回 (第20回試験) 認定 71名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

2298 蔦 幸治	2304 知念 克也
2299 武山 淳二	2305 榊 美佳
2300 鹿野 哲	2306 岡田 真也
2301 楠美 智巳	2308 加藤 裕也
2302 三輪 秀明	2309 宮川 文
2303 益澤 尚子	2310 上杉 憲幸

2311	石原 素子	2342	富田 茂樹
2312	林 雄一郎	2343	前田 宜延
2313	黒瀬 望	2344	吉田 孝友
2314	佐竹 宣法	2345	村上 仁彦
2315	庄盛 浩平	2346	高橋 利幸
2316	鈴木 潮人	2347	柴原 純二
2317	杉田 暁大	2348	吉田恭太郎
2318	上原 剛	2349	高橋 卓也
2319	柳澤 信之	2350	渡辺 恵子
2321	尾矢 剛志	2351	岩佐 敏
2322	山田 泰広	2352	山崎 一人
2323	長崎 真琴	2353	吉澤 明彦
2324	野呂 昌弘	2354	東 守洋
2325	岩田 洋介	2355	中山 敏幸
2326	中島 正洋	2356	吉田 学
2327	小川 弥生	2357	三上 修治
2328	小嶋 基寛	2358	梶田咲美乃
2329	富居 一範	2359	浜谷 茂治
2330	石井 陽子	2360	中塚 伸一
2331	永井雄一郎	2361	小林 基弘
2332	松本 学	2362	谷口 浩和
2333	坂東 良美	2363	密田 亜希
2334	原 敦子	2364	近藤 英作
2335	鎌田 和久	2365	信川 文誠
2336	福島 万奈	2366	笠原 一郎
2337	池田 仁	2367	長谷川千花子
2338	大久保恵理子	2368	富田 裕彦
2339	松永 研吾	2369	熊谷 二郎
2340	中山 剛	2370	芳賀 孝之
2341	若槻 真吾		

第4回 認定 4名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
943	桑尾 定仁	970	木崎 智彦
968	森 将晏	988	蜂谷 哲也

第8回(第3回試験) 認定 2名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から3年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
673	宮田 幸忠	794	室 博之

第14回(第9回試験) 認定 3名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1588	和田 勝則	1599	吉田 尊久
1590	細川 洋平		

第16回(第11回試験) 認定 1名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から1年間

認定番号	氏名
1736	南川 哲寛

第19回(第14回試験) 認定 3名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1881	関谷 邦彦	1948	桑田健太郎
1915	山上啓太郎		

第23回(第18回試験) 認定 1名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から3年間

認定番号	氏名
2236	脇屋 緑

2. 口腔病理専門医資格更新者氏名**第5回 認定 7名**

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
68	竹内 宏	73	小林 家吉
69	仙波伊知郎	76	横瀬 敏志
70	池田 通	78	西川 哲成
72	向後 隆男		

第10回(第5回試験) 認定 5名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
89	熊本 裕行	92	伊藤 玲子
90	佐藤 泰生	93	成田 信
91	岸野 万伸		

第15回(第10回試験) 認定 3名

更新期間 平成20年(2008年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
114	石丸 直澄	116	堀井 活子
115	河野 葉子		

◇平成19年度認定病院・登録施設(第30回)の審査について:

認定施設、登録施設としての新規の申請は、16件、20件であった。審査の結果、それぞれ12件、19件が承認された。認定(登録)期間は、平成19年4月1日から平成21年3月31日までである。

(1) 認定施設

認定番号	病院名
1027	医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
4081	静岡赤十字病院
4082	名古屋記念病院

4083	名古屋市立東市民病院
5082	独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院
5083	姫路赤十字病院
6044	総合病院岡山市立市民病院
6045	三豊総合病院
6046	財団法人永頼会松山市市民病院
6047	高知赤十字病院
6048	高知医療センター
7040	独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院

(2) 登録施設

登録番号 病 院 名

1031	総合病院伊達赤十字病院
1032	総合病院釧路赤十字病院
1033	特定医療法人北楡会札幌北楡病院
1034	医療法人社団北斗 北斗病院
3112	千葉県済生会習志野病院
3113	佐野厚生総合病院
3905	順天堂大学医学部附属練馬病院
4089	医療法人社団志聖会犬山中央病院
4098	安曇野赤十字病院
4099	国立長寿医療センター
4100	独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター
4111	福祉医療センター名古屋市厚生院附属病院
5083	阪南中央病院
5084	市立小野市民病院
5085	三木市立三木市民病院
6053	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
6054	独立行政法人労働者健康福祉機構山口労災病院
7059	独立行政法人国立病院機構大分医療センター
7060	社団法人鹿児島共済会南風病院

◇平成20年度認定病院・登録施設の更新について：認定病院・登録施設としての更新申請は、審査の結果、それぞれ287施設および100施設の更新が認められた。認定（登録）期間は、平成20年4月1日から平成22年3月31日までである。

平成20年度病理専門医研修施設（認定施設）更新機関

（第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29 287施設）

期間2年間 平成20年4月1日～平成22年3月31日

第1回 認可（30施設）

認定番号 施 設 名

1001	市立札幌病院
2001	青森県立中央病院
2002	岩手県立中央病院
2003	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
3004	千葉県がんセンター
3005	国立がんセンター中央病院

3006	東京厚生年金病院
3007	国立国際医療センター
3008	NTT 東日本関東病院
3009	東京都老人医療センター
3010	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
3012	聖路加国際病院
3014	同愛記念病院
3015	武蔵野赤十字病院
3016	川崎市立川崎病院
3017	横浜市立市民病院
3018	神奈川県立がんセンター
4001	新潟県立がんセンター新潟病院
4002	静岡済生会総合病院
4004	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
5002	京都第一赤十字病院
5003	大阪赤十字病院
5005	天理よろづ相談所病院
5006	神戸市立中央市民病院
6001	（財）倉敷中央病院
6002	岡山済生会総合病院
6003	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
6004	県立広島病院
6006	広島市立広島市民病院
6007	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター

第3回 認可（7施設）

認定番号 施 設 名

1003	市立旭川病院
1004	社団法人北海道勤労者医療協会勤医協中央病院
3026	神奈川県立こども医療センター
6011	国家公務員共済組合連合会呉共済病院
7004	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
7005	大分県立病院
7006	沖縄県立中部病院

第5回 認可（11施設）

認定番号 施 設 名

1005	市立函館病院
3032	東京都立駒込病院
4011	静岡県立こども病院
4012	静岡市立静岡病院
4014	三重県厚生農業協同組合連合会松阪中央総合病院
5008	京都市立病院
5011	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
5014	大津赤十字病院
5015	大阪厚生年金病院
5016	国立循環器病センター
6013	総合病院岡山赤十字病院

第7回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2008	医療法人明和会中通総合病院
3011	東京通信病院
3041	社会福祉法人三井記念病院
3043	東京都立広尾病院
5018	松下電器健康保険組合松下記念病院
6015	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター
6016	愛媛県立中央病院

第9回 認可 (4施設)

認定番号	施設名
2010	(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院
4021	名古屋掖済会病院
4022	岐阜市民病院
5023	兵庫県立がんセンター

第11回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2011	八戸市立市民病院
3056	社会保険中央総合病院
3058	独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院
4028	岡崎市民病院
5028	医療法人同仁会耳原総合病院
5029	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
5030	京都民医連中央病院

第13回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
2014	いわき市立総合磐城共立病院
3065	栃木県立がんセンター
3066	足利赤十字病院
3067	前橋赤十字病院
3068	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
4031	愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院
5031	大阪警察病院

第15回 認可 (8施設)

認定番号	施設名
3024	自衛隊中央病院
3074	千葉県こども病院
3075	財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター
4037	石川県立中央病院
5034	星ヶ丘厚生年金病院
5035	医療法人愛仁会高槻病院
7015	社会保険小倉記念病院
7016	飯塚病院

第17回 認可 (3施設)

認定番号	施設名
4040	新潟県立中央病院
4041	福井赤十字病院
5038	京都第二赤十字病院

第19回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
3038	国立国際医療センター国府台病院
3055	国家公務員共済組合連合会総合病院横須賀共済病院
3083	川口市立医療センター
3084	船橋市立医療センター
4013	岐阜県総合医療センター
4046	トヨタ記念病院
5042	(財)神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター

第21回 認可 (9施設)

認定番号	施設名
2018	由利組合総合病院
2019	日本海総合病院
2020	鶴岡市立荘内病院
3087	総合病院取手協同病院
3088	成田赤十字病院
3089	東京医療生活協同組合中野総合病院
5004	大阪府立成人病センター
5045	特定医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院
5046	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

第23回 認可 (20施設)

認定番号	施設名
2028	財団法人星総合病院
3031	国保松戸市立病院
3042	東京都立豊島病院
3101	国保直営総合病院君津中央病院
3102	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院
3103	医療法人社団愛心会湘南鎌倉総合病院
4056	市立砺波総合病院
4057	特定医療法人慈泉会相澤病院
5052	市立長浜病院
5053	大津市民病院
5055	市立池田病院
5056	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
5057	市立堺病院
5058	市立泉佐野病院
5059	箕面市立病院
5060	公立学校共済組合近畿中央病院
5062	財団法人甲南病院
6029	香川医療生活協同組合高松平和病院

- 7023 長崎市立市民病院
7024 宮崎県立延岡病院

第25回 認可 (26 施設)

- | 認定番号 | 施設名 |
|------|-----------------------|
| 1015 | 市立室蘭総合病院 |
| 1016 | 北海道社会保険病院 |
| 1017 | NTT 東日本札幌病院 |
| 1018 | 札幌社会保険総合病院 |
| 1019 | JA 北海道厚生連札幌厚生病院 |
| 1021 | 独立行政法人労働者健康福祉機構釧路労災病院 |
| 1022 | 医療法人社団新日鐵室蘭総合病院 |
| 2030 | 秋田県厚生連平鹿総合病院 |
| 3108 | 上都賀総合病院 |
| 3109 | 独立行政法人国立病院機構高崎病院 |
| 3110 | 国立成育医療センター |
| 4038 | 長野県厚生農業協同組合連合会北信総合病院 |
| 4052 | 焼津市立総合病院 |
| 4061 | 長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井総合病院 |
| 4063 | 福井県立病院 |
| 4064 | 富士宮市立病院 |
| 4065 | 県西部浜松医療センター |
| 5027 | (財) 田附興風会医学研究所北野病院 |
| 5066 | 宝塚市立病院 |
| 5067 | 加古川市民病院 |
| 6030 | 鳥取県立中央病院 |
| 6031 | 住友別子病院 |
| 7028 | 福岡県済生会福岡総合病院 |
| 7029 | 熊本赤十字病院 |
| 7030 | 医療法人中部徳洲会中部徳洲会病院 |
| 7031 | 那覇市立病院 |

第27回 認可 (17 施設)

- | 認定番号 | 施設名 |
|------|-----------------------|
| 1025 | 社会福祉法人函館厚生院函館中央病院 |
| 2034 | 岩手県立胆沢病院 |
| 2035 | 財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 |
| 3120 | 春日部市立病院 |
| 3121 | 独立行政法人国立病院機構東京病院 |
| 3122 | 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター |
| 4069 | 掛川市立総合病院 |
| 4070 | 静岡県立静岡がんセンター |
| 4071 | 春日井市民病院 |
| 5001 | 独立行政法人国立病院機構京都医療センター |
| 5075 | 医療法人愛仁会千船病院 |
| 5076 | 関西電力病院 |
| 5077 | 大阪府済生会中津病院 |
| 5078 | 医療法人明和病院 |

- 7034 医療法人北九州病院北九州総合病院
7035 独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院
7036 社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

第29回 認可 (124 施設)

- | 認定番号 | 施設名 |
|------|------------------|
| 1026 | 市立釧路総合病院 |
| 1901 | 旭川医科大学病院 |
| 1902 | 北海道大学病院 |
| 1903 | 札幌医科大学附属病院 |
| 2037 | 財団法人大原総合病院 |
| 2901 | 弘前大学医学部附属病院 |
| 2902 | 秋田大学医学部附属病院 |
| 2903 | 岩手医科大学附属病院 |
| 2904 | 東北大学病院 |
| 2905 | 山形大学医学部附属病院 |
| 2906 | 福島県立医科大学附属病院 |
| 3090 | 大和市立病院 |
| 3132 | 国際医療福祉大学三田病院 |
| 3133 | 国際医療福祉大学熱海病院 |
| 3901 | 自治医科大学附属病院 |
| 3902 | 獨協医科大学病院 |
| 3903 | 群馬大学医学部附属病院 |
| 3904 | 筑波大学附属病院 |
| 3905 | 埼玉医科大学病院 |
| 3906 | 防衛医科大学校病院 |
| 3907 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 3908 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院 |
| 3909 | 慶応義塾大学病院 |
| 3910 | 日本大学医学部附属板橋病院 |
| 3911 | 日本医科大学付属病院 |
| 3912 | 東京医科大学病院 |
| 3913 | 東京慈恵会医科大学附属病院 |
| 3914 | 東京女子医科大学病院 |
| 3915 | 東邦大学医療センター大森病院 |
| 3916 | 昭和大学病院 |
| 3917 | 東京医科歯科大学医学部附属病院 |
| 3918 | 東京大学医学部附属病院 |
| 3919 | 杏林大学医学部附属病院 |
| 3920 | 帝京大学医学部附属病院 |
| 3921 | 聖マリアンナ医科大学病院 |
| 3922 | 北里大学病院 |
| 3923 | 東海大学医学部附属病院 |
| 3924 | 横浜市立大附属病院 |
| 3925 | 東京医科大学霞ヶ浦病院 |
| 3926 | 獨協医科大学越谷病院 |
| 3927 | 埼玉医科大学総合医療センター |
| 3928 | 自治医科大学附属大宮医療センター |

3026 平塚市民病院
 4008 名鉄病院
 4017 市立四日市病院
 4019 市立伊勢総合病院
 7005 日本赤十字社長崎原爆病院
 7007 独立行政法人国立病院機構別府医療センター

第3回 認可 (1施設)

認定番号 施設名
 5022 兵庫県立柏原病院

第5回 認可 (2施設)

認定番号 施設名
 3035 国家公務員共済組合連合会九段坂病院
 5029 医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院

第7回 認可 (2施設)

認定番号 施設名
 3042 千葉県救急医療センター
 3043 JFE健康保険組合川鉄千葉病院

第9回 認可 (3施設)

認定番号 施設名
 4037 佐久市立国保浅間総合病院
 4039 国家公務員共済組合連合会名城病院
 4040 総合病院中津川市民病院

第11回 認可 (2施設)

認定番号 施設名
 4045 みなと医療生活協同組合協立総合病院
 7031 唐津赤十字病院

第13回 認可 (2施設)

認定番号 施設名
 1006 独立行政法人国立病院機構道北病院
 4051 医療法人社団健和会健和会病院

第15回 認可 (4施設)

認定番号 施設名
 3070 (財)東京都保健医療公社東部地域病院
 4056 山田赤十字病院
 4057 松阪市民病院
 6020 岡山労災病院

第17回 認可 (3施設)

認定番号 施設名
 3074 医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院
 4061 豊川市民病院

5048 市立伊丹病院

第19回 認可 (8施設)

認定番号 施設名
 1009 国家公務員共済組合連合会斗南病院
 4069 榛原総合病院
 4070 飯田市立病院
 4071 大垣市民病院
 4072 羽島市民病院
 5050 社会保険京都病院
 5051 加西市立加西病院
 7041 今給黎総合病院

第21回 認可 (8施設)

認定番号 施設名
 1011 美唄労災病院
 1014 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
 3084 放射線医学総合研究所重粒子治療センター
 4075 西尾市民病院
 5056 高槻赤十字病院
 5059 兵庫県立こども病院
 6035 医療法人近森会近森病院
 7043 医療法人親仁会米の山病院

第23回 認可 (6施設)

認定番号 施設名
 1019 医療法人王子総合病院
 2018 岩手県立大船渡病院
 3086 草加市立病院
 4079 独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
 4080 一宮市立市民病院
 7048 社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院

第25回 認可 (15施設)

認定番号 施設名
 1013 医療法人母恋日鋼記念病院
 2020 公立刈田総合病院
 2021 宮城県立がんセンター
 2022 仙台社会保険病院
 2023 大崎市民病院
 3094 (財)結核予防会複十字病院
 3095 独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
 4085 長野市民病院
 4086 長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院
 5069 大阪府済生会富田林病院
 5070 市立枚方市民病院
 5071 明石市立市民病院
 5072 赤穂市民病院

- 5073 独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
6030 医療法人里仁会興生総合病院

第27回 認可 (7施設)

- | 認定番号 | 施設名 |
|------|------------------------|
| 4093 | 岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院 |
| 5079 | 泉大津市立病院 |
| 6047 | 国家公務員共済組合連合会高松病院 |
| 6048 | 高知県立幡多けんみん病院 |
| 7051 | 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター |
| 7052 | 医療法人沖繩徳洲会南部徳洲会病院 |
| 7053 | 医療法人かりゆし会ハートライフ病院 |

第29回 認可 (24施設)

- | 認定番号 | 施設名 |
|------|-----------------------------|
| 1029 | 医療法人彰和会北海道消化器科病院 |
| 1030 | 北海道社会事業協会小樽病院 |
| 2029 | JA 秋田厚生連秋田組合総合病院 |
| 3080 | 国立療養所多磨全生園 |
| 3111 | (財) ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院 |
| 3901 | 東京大学医科学研究所附属病院 |
| 3902 | 東海大学医学部付属東京病院 |
| 3903 | 東海大学医学部付属八王子病院 |
| 3904 | 東海大学医学部付属大磯病院 |
| 4091 | 金沢市立病院 |
| 4096 | 公立松任石川中央病院 |
| 4097 | 南砺市民病院 |
| 4901 | 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 |
| 5081 | 大阪府済生会茨木病院 |
| 5082 | 兵庫県立加古川病院 |
| 5901 | 関西医科大学附属枚方病院 |
| 6015 | 徳島市民病院 |
| 6034 | 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院 |
| 6051 | 山口県済生会下関総合病院 |
| 6052 | 社会保険下関厚生病院 |
| 7055 | 独立行政法人国立病院機構小倉病院 |
| 7056 | 医療法人社団高邦会高木病院 |
| 7057 | 長崎県済生会病院 |
| 7058 | 長崎県立島原病院 |

◇平成19年度事業報告について：第97回(平成20年度)総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成19年度事業報告(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)は、以下のとおりである。

I. 学術集会, 研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 「第96回日本病理学会総会」(於大阪市・青笹克之会長)を開催

- (2) 「第53回日本病理学会秋期特別総会」(於東京都・向井清会長)を開催

2. 研究会, 講習会等の開催

- (1) 「第5回日本病理学会カンファレンス(2007旭川)」を実施
- (2) 細胞診講習会(於東京都)を実施
- (3) 病理診断講習会(於大阪市)を実施
- (4) 病理技術講習会(於東京都)を実施
- (5) 診断病理サマーフェスト(於東京都)を実施
- (6) 各支部会における「学術・研修集会」等を実施

II. 学会誌, 学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」(第96巻第1~2号)を発行
2. 「Pathology International」(第57巻第4~12号, 第58巻第1~3号)を発行
3. 「診断病理」(第24巻第2~4号, 第25巻第1号)を発行
4. 「日本病理学会会報」(第231号~242号)を発行
5. 「病理専門医部会報」(2007年第2~4号, 2008年第1号)を発行

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」第48輯(平成17年症例)を発行
2. 剖検輯報編集方法を変更・充実
3. 剖検記録データベースを再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験(於東京都)を実施
2. 病理専門医を広告
3. 「病理専門医研修手帳」の実施
4. 研修施設を認定

V. 学術団体との協力, 連絡

1. 他学会との会議共催および後援(国内)を多数実施
2. 腫瘍取扱い規約の改訂を検討
3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣, 学術交流を実施
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流を実施

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学会学術奨励賞を4名に授与
2. 海外病理学会への参加支援
3. 病理学教育を考えるワークショップ(於豊明市)を実施
4. 病理診断コンサルテーションシステムを充実
5. インターネットホームページを充実
6. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施
7. 病理専門医制度運営, 口腔病理専門医制度運営, 医療業務等の各種委員会を開催

◇平成19年度収支決算報告について：第97回(平成20年度)総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成19年度収支決算報告は、以下のとおりである。

1) 収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	1,000	59,820	58,820
受取利息収入	1,000	59,820	58,820
2. 会費収入	73,430,000	70,590,000	△ 2,840,000
正会員・学術評議員会費	31,000,000	28,257,000	△ 2,743,000
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000
同一般会員会費	27,000,000	27,530,000	530,000
学生会員会費	30,000	5,000	△ 25,000
賛助会員会費	250,000	150,000	△ 100,000
機関会員会費	450,000	380,000	△ 70,000
病理専門医部会費	11,700,000	10,668,000	△ 1,032,000
3. 事業収入	110,500,000	130,376,026	19,876,026
学術集会収入	70,000,000	86,315,200	16,315,200
論文掲載料収入	3,000,000	934,054	△ 2,065,946
広告料収入	1,000,000	840,000	△ 160,000
刊行物発行収入	15,000,000	14,054,000	△ 946,000
専門医制度収入	15,000,000	16,942,000	1,942,000
病理専門医部会収入	4,000,000	4,282,058	282,058
講習会等収入	500,000	4,584,000	4,084,000
賠償責任保険事務費収入	2,000,000	2,424,714	424,714
4. 補助金収入	11,000,000	3,100,000	△ 7,900,000
学術振興会科学研究費	10,800,000	3,100,000	△ 7,900,000
日本医学会補助金	200,000	0	△ 200,000
5. 繰入金収入	2,500,000	2,630,000	130,000
学術医療基金繰入金収入	2,500,000	2,630,000	130,000
6. 雑収入	1,505,000	3,533,962	2,028,962
受取利息収入	5,000	413,634	408,634
雑収入	1,500,000	3,120,328	1,620,328
当期収入合計 (A)	198,936,000	210,289,808	11,353,808
前期繰越収支差額	39,758,000	62,025,620	22,267,620
収入合計 (B)	238,694,000	272,315,428	33,621,428

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
II. 支出の部			
1. 事業支出	157,800,000	170,948,289	13,148,289
学術集会経費	71,800,000	88,986,585	17,186,585
学会誌発行経費	37,000,000	33,870,190	△ 3,129,810
会報発行経費	3,500,000	3,152,100	△ 347,900
剖検輯報刊行経費	14,000,000	10,038,952	△ 3,961,048
専門医制度運営経費	8,500,000	8,758,892	258,892
病理専門医部会経費	8,000,000	8,418,356	418,356
支部運営経費	6,000,000	5,850,000	△ 150,000
学術奨励等経費	4,500,000	4,802,761	302,761
講習会等経費	1,000,000	3,965,554	2,965,554

各種委員会経費	3,500,000	3,104,899	△ 395,101
2. 管理費	32,030,000	41,192,500	9,162,500
人件費	15,000,000	13,738,786	△ 1,261,214
福利厚生費	1,500,000	2,158,686	658,686
交通費	500,000	270,660	△ 229,340
通信運搬費	3,000,000	3,357,485	357,485
会議費	1,500,000	1,580,242	80,242
印刷費	2,000,000	2,805,112	805,112
備品費	200,000	0	△ 200,000
消耗品費	400,000	642,590	242,590
光熱費	230,000	221,642	△ 8,358
賃借料	2,600,000	2,705,433	105,433
諸会費	800,000	900,000	100,000
補助金	200,000	200,000	0
修繕費	100,000	0	△ 100,000
嘱託料	1,500,000	1,959,500	459,500
租税公課(消費税等)	2,000,000	2,415,200	415,200
(法人税等)	0	7,621,821	7,621,821
雑費	500,000	615,343	115,343
3. その他	4,300,000	5,424,583	1,124,583
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療基金引当預金繰入支出他	2,700,000	3,824,583	1,124,583
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000
当期支出合計 (C)	195,130,000	217,565,372	22,435,372
当期収支差額 (A-C)	3,806,000	△ 7,275,564	△ 11,081,564
次期繰越収支差額 (B-C)	43,564,000	54,750,056	11,186,056

2) 正味財産増減計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位 円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
退職給与引当預金積立金額	1,600,000		
学術医療基金引当預金積立額	3,785,449		
国際交流基金引当預金積立額	39,134	5,424,583	
2. 負債減少額			
増加額合計			5,424,583
II. 減少の部			
1. 資産減少額			0
当期収支差額	7,275,564		
学術医療基金引当預金取崩	2,630,000	9,905,564	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額	1,600,000	1,600,000	
減少額合計			11,505,564
当期正味財産減少額			6,080,981
前期繰越正味財産額			230,533,988
期末正味財産合計額			224,453,007

3) 貸借対照表

平成 20 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	92,104,369		
前 払 金	195,300		
立 替 金	1,215,000		
未 収 金	154,943		
流動資産合計		93,669,612	
2. 固定資産			
基本財産	30,000,000		
その他の固定資産			
特別財産	138,687,994		
保 証 金	930,000		
退職給与引当預金	14,300,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	154,002,951		
固定資産合計		184,002,951	
資産合計			277,672,563
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	17,100,000		
未払金	21,671,616		
預り金	147,940		
流動負債合計		38,919,556	
2. 固定負債			
退職給与引当金	14,300,000		
固定負債合計		14,300,000	
負債合計			53,219,556
III. 正味財産の部			
正味財産			224,453,007
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期減少額)			(6,080,981)
負債及び正味財産合計			277,672,563

4) 財産目録

平成 20 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金			
現 金 現金手許有高	266,853		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	88,891,944		
普通預金			
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	78,909		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	58,204		
郵便振替貯金	2,808,459		
現金預金合計	92,104,369		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
前払金合計	195,300		

(3) 未収金			
学会誌発行収入等	154,943		
(4) 立替金			
P.I.カラー頁印刷費	1,215,000		
流動資産合計			93,669,612
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金			
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
① 特別財産			
学術医療基金引当預金	118,596,223		
(普通・三菱東京 UFJ 銀行春日支店他)			
国際交流基金引当預金	20,091,771		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
特別財産合計	138,687,994		
② 保 証 金	930,000		
③ 退職給与引当預金	14,300,000		
④ 什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	154,002,951		
固定資産合計			184,002,951
資産合計			277,672,563

(単位 円)

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成 20 年度会費・部会費等	17,100,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	6,398,871		
日病会誌印刷費	5,443,820		
細胞診講習会経費	1,107,104		
未払消費税	1,100,000		
未払法人税等	7,621,821		
未払金合計	21,671,616		
(3) 預り金			
源泉所得税等	147,940		
流動負債合計			38,919,556
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	14,300,000		
固定負債合計			14,300,000
負債合計			53,219,556
正味財産			224,453,007

◆会員数（平成20年度7月31日現在）：

正会員	3,808名
（学術評議員	1,566名）
（一般会員	2,242名）
名誉会員	276名
賛助会員	4名
機関会員	91名
計	4,179名

◆役員一覧（平成20年度）：

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。

理事および監事（任期：平成22年3月31日まで）

理事長	長村 義之
副理事長・常任理事	岡田 保典
副理事長・理事	深山 正久
常任理事	真鍋 俊明
常任理事	黒田 誠
理事	青笹 克之
理事	井内 康輝
理事	覚道 健一
理事	松原 修
理事	本山 悌一
理事	向井 清
理事	根本 則道
理事	坂本 穆彦
理事	佐藤 昇志
理事	白石 泰三
理事	居石 克夫
理事	寺田 信行
理事	上田真喜子
理事	山口 朗
監事	石原 得博
監事	太田 秀一

◇各種委員会委員名簿（平成年度20年度）：

1. 企画委員会

深山正久(委員長), 岡田保典, 真鍋俊明, 黒田 誠, 坂本穆彦, 覚道健一, 松原 修, 本山悌一, 上田真紀子, 大橋健一

1-2. サマーフェスト委員会

真鍋俊明(委員長), 福嶋敬宜, 濱田智美, 久岡正典, 平戸純子, 清川貴子, 田丸淳一

1-3. 市民公開講座検討委員会

岡田保典(委員長), 深山正久, 羽場礼次, 樋野興夫, 中山淳, 落合淳志, 坂元亨宇, 安井 弥

2. 広報委員会

坂本穆彦(委員長), 岡田保典, 真鍋俊明, 黒田 誠, 深山正久, 向井 清, 居石克夫, 上田真喜子, 山口 朗, 藤井

丈士, 望月 眞, 谷山清己

3. 財務委員会

真鍋俊明(委員長), 岡田保典, 黒田 誠, 深山正久, 坂本穆彦, 松原 修, 向井 清

4. 学術委員会

岡田保典(委員長), 真鍋俊明, 黒田 誠, 深山正久, 坂本穆彦, 青笹克之, 佐藤昇志, 居石克夫, 山口 朗, 内藤 眞, 安井 弥, 樋野興夫, 能勢眞人, 落合淳志, 坂元亨宇, 当該年春期総会会長(樋野興夫), 秋期特別総会会長(松原修)

4-2. 学術奨励賞選考委員会

青笹克之(委員長), 深山正久, 井内康輝, 松原 修, 坂本穆彦, 向井 清, 岡田保典, 覚道健一, 黒田 誠

5. 研究推進委員会

青笹克之(委員長), 深山正久, 岡田保典, 加藤光保, 横崎宏, 松川昭博, 笹野公伸, 高桑徹也, 恒吉正澄

6. 編集委員会

向井 清(委員長), 深山正久, 坂本穆彦, 真鍋俊明, 岡田保典, 青笹克之, 覚道健一, 根本則道, 高橋雅英, 向井万起男

6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英(委員長), 藤本純一郎, 福嶋敬宜, 原田孝之, 廣瀬隆則, 石田 剛, 城 謙輔, 森永正二郎, 本山悌一, 向井 清, 中谷行雄, 中里洋一, 野口雅之, 落合淳志, 小田義直, 岡田保典, 大島孝一, 坂元亨宇, 佐野壽昭, 佐多徹太郎, 清水道生, 滝澤登一郎, 堤 寛, 都築豊徳, 上田真喜子, 梅村しのぶ, 横山繁生, 吉野 正

6-3. 剖検情報委員会

根本則道(委員長), 藤原 恵, 市原 周, 楠美嘉晃

7. 病理専門医制度運営委員会

黒田 誠(委員長), 根本則道, 覚道健一, 白石泰三, 橋本洋, 清水道生, 田村浩一, 泉 美貴, 森永正二郎, 森谷卓也, 村田哲也, 仁木利郎, 向井万起男

7-2. 病理専門医試験委員会

仁木利郎(委員長), 梅村しのぶ, 森 正也, 内藤善哉, 菅間 博, 小西 登, 野口雅之, 大橋健一

7-3. 病理専門医資格審査委員会

森永正二郎(委員長), 泉 美貴, 石田 剛, 岩田 純, 都築豊徳, 野口雅之

7-4. 病理専門医施設審査委員会

橋本 洋(委員長), 村田哲也, 長谷川匡, 中村栄男, 中村眞一, 大倉康男

7-5. 「診断病理」編集委員会

向井万起男(委員長), 笹島ゆう子(副), 布村眞季(副), 安田政実(副), 長谷川匡, 鬼島 宏, 内藤善哉, 伊藤浩史, 横崎 宏, 松川昭博, 横山繁生(以上支部編集委員)

7-6. 病理専門医部会報編集委員会

清水道生(委員長), 堤 寛(副), 望月 眞(副), 佐藤

- 昌明, 鬼島 宏, 梅村しのぶ, 福留寿生, 大山秀樹, 藤原 恵, 小田義直
- 7-7. 病理診断講習会委員会
清水道生(委員長), 森谷卓也, 福嶋敬宜, 鷹橋浩幸, 笹島 ゆう子, 小田義直
- 7-8. 病理診断体制専門委員会
水口國雄(委員長), 羽山忠良, 岸川正大, 小松明男, 大橋 健一, 嶋田裕之, 田村浩一, 安田政実, 黒田 誠, 根本則道, 谷山清己, 佐々木毅
8. 医療業務委員会
根本則道(委員長), 真鍋俊明, 本山悌一, 白石泰三, 廣川 満良, 湊 宏, 大橋健一, 松野吉宏, 清水道生
- 8-2. コンサルテーション委員会
森永正二郎(委員長), 森谷卓也, 清川貴子, 長嶋洋治, 都築豊徳, 吉野 正
- 8-3. 社会保険委員会
稲山嘉明(委員長), 逸見明博, 熊坂利夫, 森 正也, 大倉 康男, 佐々木毅, 横山宗伯, 嶋田裕之, 島村和男(顧問: 原正道, 水口國雄)
- 8-4. 精度管理委員会
羽場礼次(委員長), 鬼島 宏, 長嶋洋治, 大林千穂, 清水 禎彦, 和田 了, 柳井広之, 木佐貫篤
- 8-5. 剖検・病理技術委員会
谷山清己(委員長), 明石 巧, 筑後孝章, 長谷川剛, 万代 光一, 仲里 巖, 清水秀樹, 山城勝重, 柳井広之
- 8-6. 癌取扱い規約委員会
坂本穆彦(委員長), 伊藤以知郎, 森永正二郎
9. 口腔病理専門医制度運営委員会
山口 朗(委員長), 覚道健一, 井上 孝, 出雲俊之, 豊澤 悟, 仙波伊知郎, 高田 隆, 田中陽一
- 9-2. 口腔病理専門医試験委員会
出雲俊之(委員長), 朔 敬, 山口 朗, 井上 孝, 豊澤 悟
- 9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会
高田 隆(委員長), 仙波伊知郎
10. 教育委員会
覚道健一(委員長), 井内康輝, 寺田信行, 羽場礼次, 伊藤 浩史, 下 正宗, 中島 孝, 若狭朋子
11. 国際交流委員会
松原 修(委員長), 佐藤昇志, 荒川 敦, 久岡正典, 清川 貴子, 笹野公伸, 都築豊徳
12. 支部委員会
居石克夫(委員長), 佐藤昇志, 本山悌一, 根本則道, 白石 泰三, 寺田信行, 井内康輝
13. 倫理委員会
井藤久雄(委員長), 岡崎悦夫, 武村民子, 堤 寛, 伊藤 雅文, 本山悌一, 長嶋洋治, 増井 徹(外部委員), 中島みち(外部委員), 宇都木伸(外部委員)
14. リスクマネジメント委員会
井内康輝(委員長), 野々村昭孝, 長村義之, 坂本穆彦, 児玉安司(外部委員)
15. 医療関連死関係専門委員会
黒田 誠(委員長), 深山正久, 真鍋俊明, 森 茂郎, 根本則道, 野口雅之, 岡崎悦夫, 加治一毅
16. プログラム推進委員会
青笹克之(委員長), 深山正久, 黒田 誠, 岡田保典, 村田 哲也, 清水道生, 梅村しのぶ
17. 人材育成委員会
上田真喜子(委員長) 深山正久, 向井 清, 坂本穆彦, 羽賀博典, 渡邊みか, 梅村しのぶ, 大井章史, 武島幸男, 小田義直, 大橋健一
- 17-2. 若手医師確保に関する委員会
大橋健一(委員長), 羽場礼次, 茅野秀一, 鬼島 宏, 北川 昌伸, 長嶋洋治, 笹島ゆう子, 鈴木 貴, 田村浩一, 谷山 清己, 伊倉義弘, 森井英一, 豊國伸哉
- ◇社団法人日本病理学会事務局:
・住所: 〒113-0033 文京区本郷2-40-9
ニュー赤門ビル4階
・TEL: 03-5684-6886
・FAX: 03-5684-6936
・E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp (事務局)
・E-mail: pin@blackwellpublishing.com (Pathology Int. 編集室)
・ホームページ: <http://jsp.umin.ac.jp/>
・郵便振替口座: 口座番号 00130-4-32817
加入者名 社団法人日本病理学会